

2300 Series
SmartPanels 2.0

User Manual

C00



This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Changes or modifications made to this equipment not expressly approved by Riedel may void the FCC authorization to operate this equipment.

RSP-2318 / ESP-2324

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instruction manual, may cause harmful interference to radio communications. Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference in which case the user will be required to correct the interference at his own expense.

DSP-2312

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.



The devices conform to the EU guidelines

- EMV (EMC) 2014/30/EU
 - NSR (LVD) 2014/35/EU
- as attested by the CE mark.

Industry Canada

- RSP-2318, ESP-2324: CAN ICES-3 (A)/NMB-3(A)
- DSP-2312: CAN ICES-3 (B)/NMB-3(B)

Standards:

RSP-2318, ESP-2324:

- EN 55103-1, EN 55103-2
 - EN 61000-3-2, EN 61000-3-3
 - IEC 60950-1:2005+A1+A2
 - EN 60950-1:2006+A11+A1+A12+A2.
- Group and national differences for CENELEC, USA and Canada have been checked.
- ANSI/UL 60950-1
 - CAN/CSA C22.2#60950-1

DSP-2312:

- EN 55032
- EN 55103-2
- EN 61000-3-2, EN 61000-3-3
- IEC/EN 60950-1
- IEC/EN 62368-1 Ed. 2



01-000HB01EG-C00
SmartPanels 2.0 User Manual

© June 2022 Riedel Communications GmbH & Co. KG. ALL RIGHTS RESERVED.

UNDER THE COPYRIGHT LAWS, THIS MANUAL MAY NOT BE COPIED, IN WHOLE OR IN PART, WITHOUT THE WRITTEN CONSENT OF RIEDEL. EVERY EFFORT HAS BEEN MADE TO ENSURE THAT THE INFORMATION IN THIS MANUAL IS ACCURATE. RIEDEL IS NOT RESPONSIBLE FOR PRINTING OR CLERICAL ERRORS. ALL TRADEMARKS ARE THE PROPERTY OF THEIR RESPECTIVE OWNERS.

目次

1	はじめに.....	5
1.1	ご案内.....	6
1.2	ファームウェア・バージョン	8
1.3	変更歴.....	9
1.4	2300 シリーズ SmartPanel について.....	10
1.5	オーディオ・パッチ.....	11
2	RSP-2318 SmartPanel	14
2.1	操作要素	15
2.2	ステータス LED.....	16
2.3	キーの番号付け.....	17
2.4	電源投入	17
2.5	音量.....	18
2.6	リセット	19
2.7	エア・フィルターを交換する	19
2.8	技術仕様.....	21
3	ESP-2324 拡張 SmartPanel.....	22
3.1	操作要素	22
3.2	ステータス LED.....	23
3.3	キーの番号付け.....	23
3.4	ディジーチェーン接続	24
3.5	拡張アドレス.....	24
3.6	電源投入	25
3.7	リセット	25
3.8	技術仕様.....	25
4	DSP-2312 デスクトップ SmartPanel.....	26
4.1	操作要素	27
4.2	ステータス LED.....	28
4.3	キーの番号付け.....	29
4.4	電源投入	29
4.5	音量.....	30
4.6	リセット	31
4.7	取り付け.....	31
4.8	エア・フィルターを交換する	32
4.9	技術仕様.....	33
5	設定メニュー.....	34
5.1	Device Settings.....	35
5.2	Network.....	35
5.3	Transport	35
5.4	MNCA Status	36
5.5	Licensing.....	36
5.6	Matrix	36
5.7	Service.....	37
6	ウェブ・インターフェイス.....	38
6.1	Asset ドロワー	39
6.2	ワーク・サーフェス.....	42
6.3	メイン・メニュー.....	43
6.3.1	Firmware Manager.....	43
6.4	Parameter ドロワー.....	44
6.5	選択項目	46
7	SmartPanel アプリ / ライセンス	47
7.1	インターカム・アプリ	47
7.1.1	操作.....	48
7.1.1.1	操作 : Artist-32/64/128	50
7.1.1.2	操作 : Artist-1024	55
7.1.2	キー・ディスプレイ	65
7.1.3	キー・グループ	67
7.1.4	キー・バンク.....	68

7.2	MediorNet Control アプリ	69
7.2.1	MNCA の機能	70
7.2.2	操作	70
7.2.2.1	MNCA を起動する	70
7.2.2.2	ルートを切り替える	71
7.2.2.3	テイク機能	72
7.2.2.4	プレビュー機能	73
7.2.3	セットアップ	74
7.2.4	キーの定義	76
7.2.5	キーの色	78
7.2.6	キーの名前付け	79
7.2.7	マクロ	80
7.2.8	GPI	83
7.2.9	キー・バンク	86
7.2.10	アプリのコンフィギュレーションをエクスポートする, インポートする	89
7.2.11	マクロをインポートする, エクスポートする	90
7.2.12	SmartPanel へのアップロード	91
7.3	ライセンスのインストール	92
8	ファームウェア・アップデート	94
8.1	USB ドライブを介するファームウェア・アップデート	94
8.2	ウェブ・インターフェイスを介するファームウェア・アップデート	95
8.3	AVB-Manager を介するファームウェア・アップデート	97
9	付録	100
9.1	ポートとピン割り当て	100
9.2	推奨保守作業	104
9.3	サービス	105

1 はじめに

Riedel 製品をお選びくださいますありがとうございます。

この資料は Riedel の SmartPanel やコネクタのピン割り当て、機械的 / 電気的データに関する詳細な情報を提供します。

さらに詳しくは [Riedel Communications 社ウェブサイト](#) をご覧になるか、販売店または直接ヴッパータール（ドイツ）の Riedel Communications 本社にお問い合わせください。

NOTICE

This manual, as well as the software and any examples contained herein are provided “as is” and are subject to change without notice. The content of this manual is for informational purpose only and should not be construed as a commitment by Riedel Communications GmbH & Co. KG or its suppliers. Riedel Communications GmbH & Co. KG gives no warranty of any kind with regard to this manual or the software including, but not limited to the implied warranties of merchantability and fitness for a particular purpose. Riedel Communications GmbH & Co. KG shall not be liable for any errors, inaccuracies or for incidental or consequential damages in connection with the furnishing, performance or use of this manual, the software or the examples herein. Riedel Communications GmbH & Co. KG reserves all patent, proprietary design, title and intellectual property rights contained herein, including, but not limited to, any images, text, photographs incorporated into the manual or software.


All title and intellectual property rights in and to the content that is accessed through use of the products is the property of the respective owner and may be protected by applicable copyright or other intellectual property laws and treaties.


1.1 ご案内


図記号

機材の取り扱いや設置に関して以下のような表を用いて、危険性を示して注意を喚起する情報を提供しています。

危険	
	避けられなかった場合に死亡や重度の負傷につながる可能性のある切迫した危険性を示します。 危険を防止するための行動を太字で示します。


警告	
	避けられなかった場合に死亡や重度の負傷につながる可能性のある潜在的な危険性を示します。 危険を防止するための行動を太字で示します。

注意	
	避けられなかった場合に軽度もしくは中程度の負傷につながる可能性のある潜在的な危険性の存在する状況を示します。安全でない習慣に対して警告する場合にも使います。 危険を防止するための行動を太字で示します。

	このテキストは一般的な情報のためのものです。 作業をやり易くするためや、より良く理解するための行動を示します。
---	--

保守

- 保守は資格のある**サービス担当者**が行ってください。
- 本機内にはユーザーが修理を行えるような部品はありません。
- 明らかに損傷を受けている機材を接続したり、電源を入れたり、使用しようと試みないでください。
- いかなる理由であれ、本機の部品を改造することを試みないでください。

注意	
	調整は機材の出荷前に工場で行われています。 保守作業は不要であり、モジュール内にはユーザーが調整や交換などの保守作業を行える部品はありません。

電圧

- 電源コードは正しくアースの取られているコンセントに接続してください。
- 電源アダプターを用いないでください。
- アース接続を必ず行ってください。

危険

感電事故の危険性を低減するために、カバーを外さないでください。また、製品を雨や湿気にさらさないでください。

環境

- 本機を埃や湿気の多い場所に置かないでください。
- 液体の入った容器を本機の上に置かないでください。
- 本機が低温の環境に置かれてから暖かい環境に運び入れられた場合、筐体内に結露が生じる可能性があります。そのような場合は本機に通電するまで少なくとも6時間待ってください。

通気

- ラジエーターのような熱源の隣に本機を配置しないでください。
- 本機の通風口を塞がないでください。

廃棄

- 自治体の規則に従って廃棄してください。


1.2 ファームウェア・バージョン

この取扱説明書は 2300 シリーズ SmartPanel のファームウェア・バージョン 2.0.x を対象とします。

ファームウェア・バージョン内の「x」はバグフィックス・バージョンを表します。関連するバグフィックスはリリース・ノート内で解説されています。

ファームウェアのバージョンは、SmartPanel の [§5『設定メニュー』](#) や [§6『ウェブ・インターフェイス』](#) から知ることができます。

SmartPanel

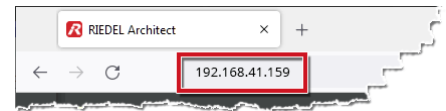
- > [Menu]  機能キーを 1 秒以上押し続けたままにして設定メニューを開く。
- > [Service] → [Device-Info] メニュー項目を表示させる。

右側のディスプレイが 2 行目で現在のファームウェアおよびバグフィックス・バージョンを示します。



ウェブ・インターフェイス

- > 同一ネットワーク上にある PC のウェブブラウザで、SmartPanel の AES67 インターフェイス (イーサネット・コネクタ) の IP アドレスを入力する。



SmartPanel の IP アドレスは [設定メニュー] → [Network] ([§5.2](#)) → [Media] → [IP Address] で表示されます。

SmartPanel のウェブ・インターフェイスが開きます。

- > [Service] → [Device-Info] メニュー項目を表示させる。右側でメイン・メニュー (≡) を開き、[Firmware Update] を選択する。



Firmware Manager が開きます。

SmartPanel のファームウェア・バージョンはその IP アドレスの隣に表示されます。



1.3 変更歴

New in 2.0 このユーザー・マニュアルでは以下の変更が行われています：

▶ メニュー構造

2300 シリーズ SmartPanel のメニュー構造を 1200 シリーズ SmartPanel に合わせました。

⇒ [§ 5 『設定メニュー』](#)

▶ Artist-1024 を用いたワークフローとユーザー・インターフェイス

2300 シリーズ SmartPanel のユーザー・インターフェイスとワークフローを 1200 シリーズ SmartPanel に合わせました。

これらは SmartPanel が Artist-32/64/128 に、または Artist-1024 に接続しているかによって異なります。

⇒ [§ 7.1.1 『操作』](#)

⇒ [§ 7.1.1.1 『操作：Artist-32/64/128』](#)

⇒ [§ 7.1.1.2 『操作：Artist-1024』](#)

▶ MediorNet Control アプリ

• SmartPanel ファームウェア・バージョン 2.0 は MediorNet Control アプリ (MNCA) バージョン 5 を含みます。

⇒ [§ 7.2 『MediorNet Control アプリ』](#)

• MNCA 5 は UHD 信号をサポートします。

⇒ [§ 7.2.1 『MNCA の機能』](#)

• MediorNet Control アプリには 2 つのキー・バンク **MNCA (Main)** および **MNCA (Shift)** からアクセスします。

⇒ [§ 7.2.2.1 『MNCA を起動する』](#)

1.4 2300 シリーズ SmartPanel について

Riedel の SmartPanel は、ユーザー・エクスペリエンスを豊かにし、コミュニケーション方法を変える強力な多機能ユーザー・インターフェイスとして設計された世界初のキー・パネルです。

独自の特徴としては、高解像度で日照下でも読み取れるマルチタッチ・カラー・ディスプレイや最上音質のステレオ音声、多言語文字セットがあります。この多機能ユーザー・インターフェイスの機能はアプリによって拡張できます。

この SmartPanel はインターカムを含むアプリを実装するように開発されており、複数のタスクを扱える直感的で柔軟なユーザー・インターフェイスを備えます。

スマートフォンがユーザー・エクスペリエンスを従来の携帯電話から豊かにしたのと同じように、Riedel の SmartPanel はワークフローをまったく新しい水準にまで引き上げるでしょう。

言うまでもなく SmartPanel は後方互換性を有しており、既存の RIEDEL インスタレーションに組み込むことができ、Artist, Tango, Performer 等の Riedel インターカム・システムとの間で円滑な相互運用性を確保できます。

SmartPanel とは何か

これはワークフローをまったく新たな水準にまで引き上げるべく開発されたマルチタッチ技術を組み込んだオープンなアプリ・ベースのユーザー・インターフェイスです。



Riedel の SmartPanel - 主な特徴

- 高輝度高解像度のディスプレイ
- 個別音量制御
- 直感的なタッチスクリーン・ユーザー・インターフェイス
- 電源内蔵
- 様々な用途に対応できるオープン・プラットフォーム
- あらゆる Riedel インターカム・マトリクス・ソリューションとの互換性
- 拡張可能な機能セット
- 汎用コントロール・パネル

1.5 オーディオ・パッチ

ファームウェア・バージョン 1.10 ならびに Pulse ソフトウェア・バージョン 1.10 を備える Tango と共に運用される全パネル・タイプは、変更不可の静的なオーディオ・パッチを使って事前に設定されています。

パネル上のヘッドセット・キーで交互に切り替えできる設定済みオーディオ・パッチが 2 つあります。RSP-2318 のオーディオ・パッチはアプリのエディション (Basic/Plus/Pro) によって異なります。

下表と図は設定済みオーディオ・パッチを説明するものです。

Basic App ライセンスのある RSP-2318

スピーカー・モード

入力	出力
パネルのマイク	マトリクス・チャンネル 1
マトリクス・チャンネル 1	スピーカー

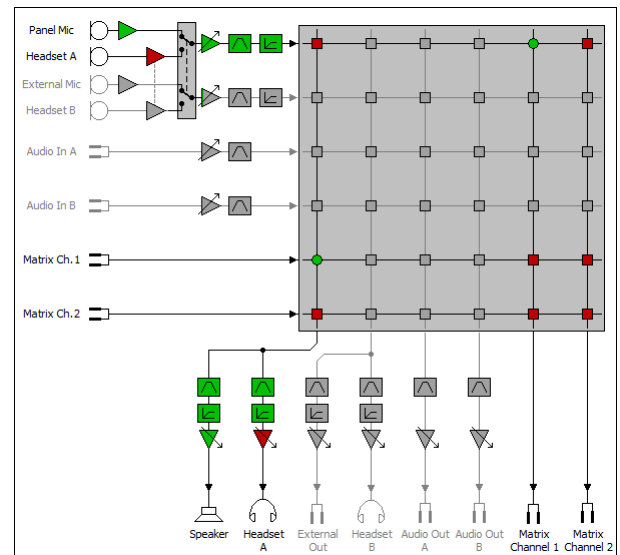


図 1 : RSP-2318 のオーディオ・パッチ - Basic App - スピーカー・モード

ヘッドセット・モード

入力	出力
ヘッドセット A	マトリクス・チャンネル 1
マトリクス・チャンネル 1	ヘッドセット A

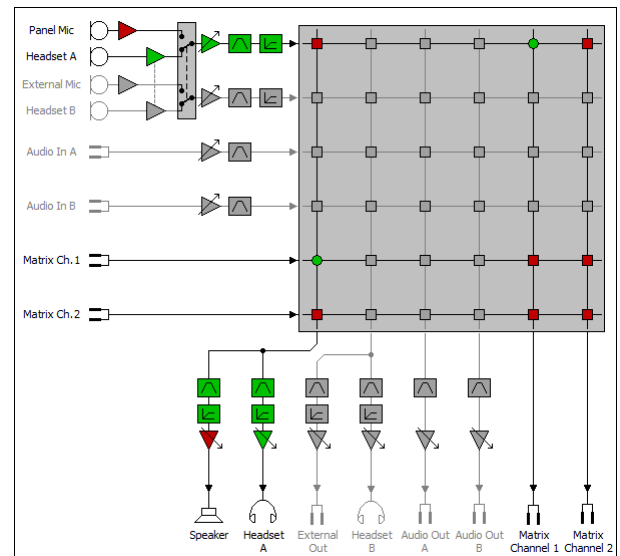


図 2 : RSP-2318 のオーディオ・パッチ - Basic App - ヘッドセット・モード

Plus App ライセンスのある RSP-2318

スピーカー・モード

入力	出力
パネルのマイク	マトリクス・チャンネル 1
音声入力 A	
マトリクス・チャンネル 1	スピーカー
	音声出力 A

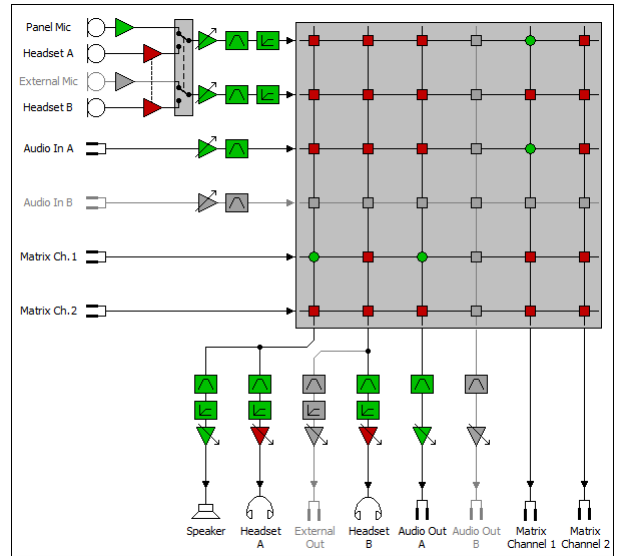


図 3 : RSP-2318 のオーディオ・パッチ-Plus App-スピーカー・モード

ヘッドセット・モード

入力	出力
ヘッドセット A	マトリクス・チャンネル 1
音声入力 A	
ヘッドセット B	マトリクス・チャンネル 2
マトリクス・チャンネル 1	ヘッドセット A
	音声出力 A
マトリクス・チャンネル 2	ヘッドセット B

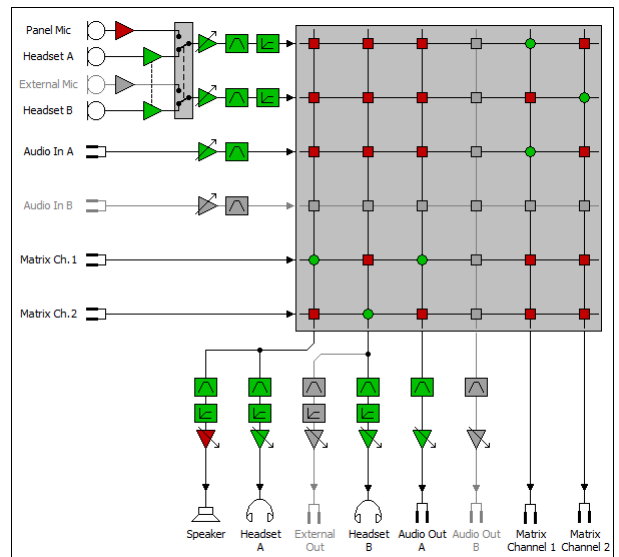


図 4 : RSP-2318 のオーディオ・パッチ-Plus App-ヘッドセット・モード

Pro App ライセンスのある RSP-2318

スピーカー・モード

入力	出力
パネルのマイク	マトリクス・チャンネル 1
音声入力 A	マトリクス・チャンネル 2
音声入力 B	マトリクス・チャンネル 2
マトリクス・チャンネル 1	スピーカー
マトリクス・チャンネル 2	音声出力 A
	音声出力 B

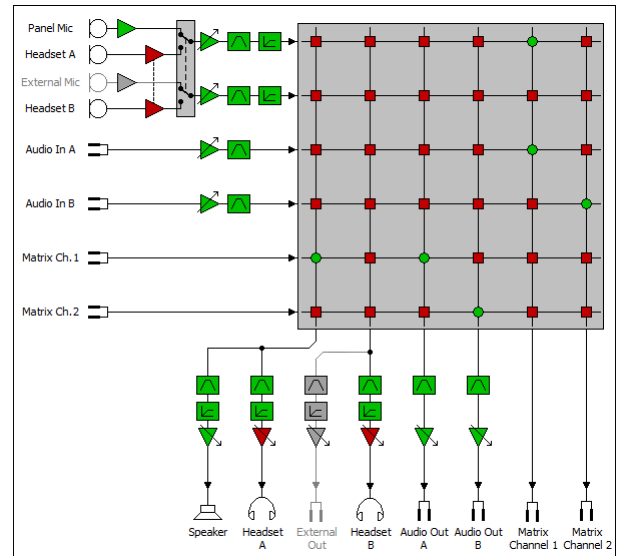


図 5 : RSP-2318 のオーディオ・パッチ - Pro App - スピーカー・モード

ヘッドセット・モード

入力	出力
ヘッドセット A	マトリクス・チャンネル 1
音声入力 A	マトリクス・チャンネル 2
ヘッドセット B	マトリクス・チャンネル 2
音声入力 B	マトリクス・チャンネル 2
マトリクス・チャンネル 1	ヘッドセット A
マトリクス・チャンネル 2	音声出力 A
	ヘッドセット B
	音声出力 B

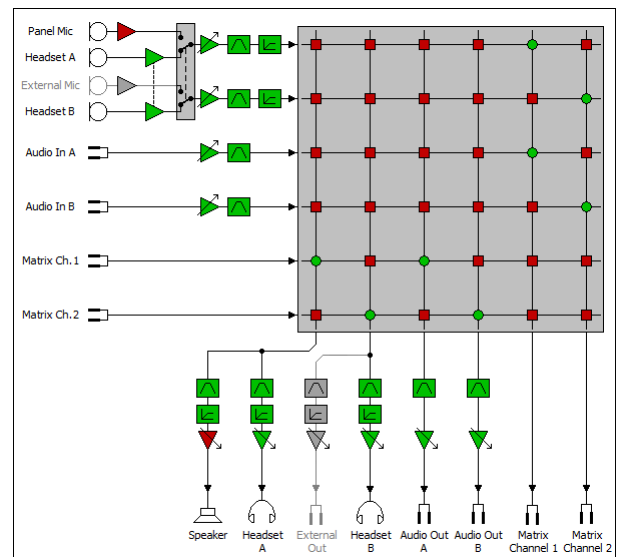


図 6 : RSP-2318 のオーディオ・パッチ - Pro App - ヘッドセット・モード

2 RSP-2318 SmartPanel

本機は3個の高輝度高解像度マルチタッチ・カラー・ディスプレイと18個のキーを1RUに収めています。アプリによってこの多機能ユーザー・インターフェイスの機能は拡張できます。

特徴

- 18キー
- 高輝度高解像度ディスプレイ×3
- 電源内蔵
- USBポート×2
- イーサネット・コネクタ×2
- SDカード・スロット×1
- HDMI出力×1
- 着脱式ゲーミング・マイクロフォン
- 交換可能なヘッドセット・コネクタ（モノ/ステレオ）
- 1RU

AES67およびAVB接続能力は標準で提供されています。

CAT/COAXを用いるAES3伝送は（オプション・スロットを使う）オプションで用意されています。

2.1 操作要素

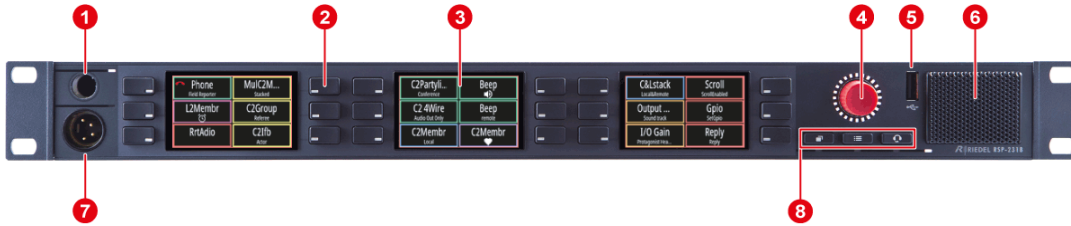


図 7 : RSP-2318 (前面)

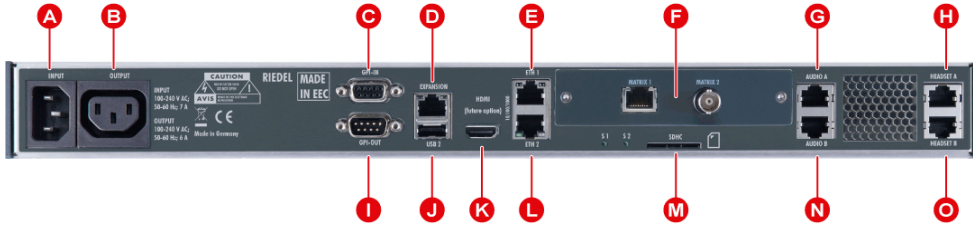



図 8 : RSP-2318 (背面)

1	パネル面のマイクロフォン・コネクタ	× 1
2	キー	× 18
3	ディスプレイ	× 3
4	押しボタン機能付きロータリー・エンコーダー	× 1
5 J	USB コネクタ (前面と背面)	× 2
6	スピーカー / エア・フィルタ	× 1 / × 1
7 H Q	ヘッドセット・コネクタ (前面と背面)	× 3
8	機能キー (Key Bank / Menu / Headset)	× 3
A	電源インレット (AC 入力)	× 1
B	電源アウトレット (次の SmartPanel への AC 出力, max. 6 A)	× 1
C	GPI-IN コネクタ (入力)	× 3
D	EXPANSION コネクタ	× 1
E	MATRIX コネクタ (AVB / AES67 / VoIP) - イーサネット・ポート	× 1
F	オプション・カード用スロット ¹⁾	× 1
G N	AUDIO A & B コネクタ (入力と出力)	× 2
I	GPI-OUT コネクタ (出力)	× 3
K	HDMI コネクタ (未実装)	× 1
L	イーサネット・ポート (未使用)	× 1
M	SD カード・スロット	× 1

1) AES3 (CAT/COAX) を介する接続用のオプションの SPX-AES インターフェイスを装備。

	<p>この SmartPanel は内蔵 AES67/AVB インターフェイスまたはオプションの SPX-AES インターフェイスのいずれかを介して操作できます。両方のインターフェイスを同時に接続しないでください。</p> <p>SPX モジュールは AVB/AES3 トランスポート・モードでのみサポートされます。</p>
---	--

ポートとピン割り当ては [§ 9.1 『ポートとピン割り当て』](#)に記載されています。

2.2 ステータス LED



図 9 : RSP-2318 前面のステータス LED の位置

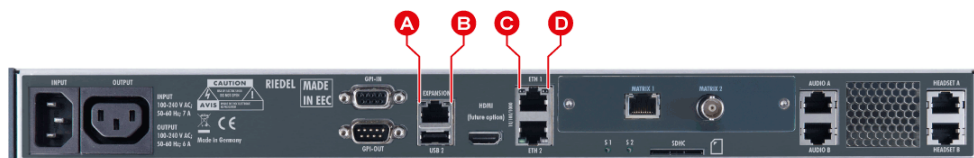


図 10 : RSP-2318 背面のステータス LED の位置

平常動作中のステータス LED の意味を下表に示します：

1	パネルのマイクロフォン	白点灯	パネルのマイクロフォン動作中、ヘッドセット停止中
		消灯	ヘッドセット動作中、パネルのマイクロフォン停止中
2	ヘッドセット	白点灯	ヘッドセット動作中、パネルのマイクロフォンとパネルのスピーカー停止中
		消灯	パネルのマイクロフォンとパネルのスピーカー動作中、ヘッドセット停止中
3	LED リング	白点灯	音量レベルを表示
4	シフト・ページ	白点灯	シフト・ページ動作中
		消灯	シフト・ページ停止中
5	メニュー	白点灯	メニュー稼働中
6	ヘッドセット	白点灯	ヘッドセット動作中、パネルのマイクロフォンとパネルのスピーカー停止中
		消灯	パネルのマイクロフォンとパネルのスピーカー動作中、ヘッドセット停止中
7	スピーカー	白点灯	パネルのスピーカー動作中、ヘッドセット停止中
		消灯	ヘッドセット動作中、パネルのスピーカー停止中
A	Expansion (左)	橙点灯	拡張パネルへのリンクが存在する
		消灯	接続なし
B	Expansion (右)	黄点灯	動作中
		消灯	動作なし
C	ETH1 (左)	緑点灯	動作中
		消灯	動作なし
D	ETH1 (右)	黄点灯	インターカム・ネットワークへの 100 Mbit/s リンクが存在する
		緑点灯	インターカム・ネットワークへの 1 Gbit/s リンクが存在する
		消灯	接続なし

2.3 キーの番号付け

キーには以下のように番号が割り振られています：

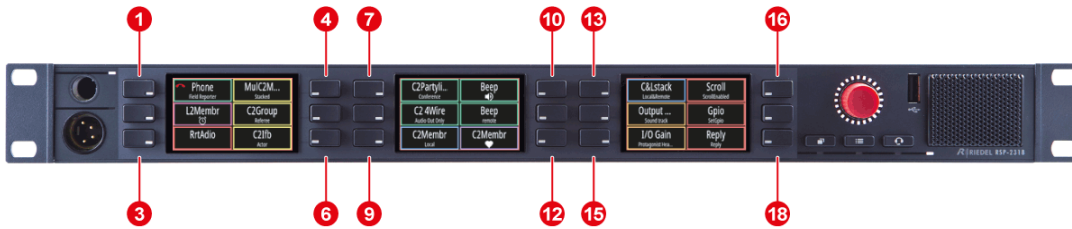


図 11：RSP-2318 のキーの番号付け

2.4 電源投入

RSP-2318 を電源コンセントに接続し、この SmartPanel が起動するまで待ちます。

SmartPanel がマトリクスに接続されていない場合、全ディスプレイには以下のコンテンツが表示されます：



図 12：接続されていない Artist-32/64/128



図 13：接続されていない Artist-1024

Matrix * ¹	マトリクスへの接続状態。
Intercom * ²	
Intercom Mode * ²	現在選択されているインターカム・モードを表示します。
Clock * ¹	この SmartPanel がネットワークと同期しているかを示します。
Media Port * ²	対応する MEDIA インターフェイスに割り当てられているイーサネット・ポートを表示します。
Network	対応する MEDIA インターフェイスへの接続状態。
Address * ²	対応する MEDIA インターフェイスの IP アドレス。
IPv4 Address * ¹	イーサネット・インターフェイスの IP アドレス。

*¹) インターカム・モードにある Artist-32/64/128 のみ。

*²) インターカム・モードにある Artist-1024 のみ。

SmartPanel がマトリクスに接続するとすぐに、プログラム済みのキー割り当てが表示されます。

SmartPanel が接続したマトリクスに応じてキーの表示は異なります。

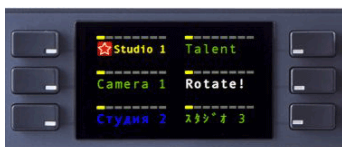


図 14：接続されている Artist-32/64/128



図 15：接続されている Artist-1024

- 各キーの隣に、対応するチャンネルの名前（キー・ラベル）が表示されます。
- 2 行目は対応するチャンネルのサブタイトル（16 文字のサブタイトル）を表示します（Artist-1024 のみ）。

2.5 音量

マスター・ボリューム

SmartPanel のマスター・ボリュームは、赤色のロータリー・エンコーダーで調整します。

設定されたボリュームは、赤いロータリー・エンコーダーの周りにある LED リングによって視覚化されます。

スピーカーとヘッドセットのボリュームは、それぞれ独立して設定できます。

ロータリー・エンコーダーを押すと、スピーカーがオフになります（ミュート）。このとき、ロータリー・エンコーダーの周りにある LED リングが点滅します。



図 16: マスター・ボリューム (RSP-2318)

ポートのボリューム / ミュート操作

各チャンネルの音量はそれぞれのディスプレイをタッチした後に調整できます。キー・ディスプレイに横棒が表示されている間は、赤いロータリー・エンコーダーを回すか、対応するキー・ディスプレイで右 / 左にスワイプすることで音量を変更可能です。

赤いロータリー・エンコーダーを押すと各チャンネルがミュートされます。このとき、それぞれのキー・ディスプレイにミュート・マークが表示されます。

ミュートはボリュームを完全に絞っても行えます。

2秒間操作しないと、キー・ディスプレイはチャンネルの標準表示に戻ります。

New in 2.0 以前のファームウェア・バージョンでは、音量を変更すると必ずミュート・キーが解除されていました。現在では音量設定はミュート状態とは独立しており、キーがミュートされている状態でも音量設定ができるようになっています。



図 17: ポートのボリューム (RSP-2318)

サイドトーンのボリューム

サイドトーンのボリュームは、設定メニューの [Device Settings (5.1)] → [Sidetone] で調整できます（インターカム・モードにある Artist-1024 のみ）。

設定メニューを開くには、ファンクション・キー [Menu] を 1 秒以上長押ししてください。



図 18: サイドトーンのボリューム (RSP-2318)



- ・サイドトーン機能は 2300 シリーズ SmartPanel とインターカム・モードにある Artist-1024 では常時アクティブであり、Director 内で追加設定することはできません。
- ・インターカム・モードにある Artist-32/64/128 では、この機能は Director 内で SmartPanel キーに設定された場合のみアクティブになります。

2.6 リセット

以下のキー押しはパネルを再起動します（ウォーム・スタート）：

➤ 前面の3個の機能キーを同時に押す（Shift-Page + Menu + Headset）。



図 19：RSP-2318（リセットのキー押し）

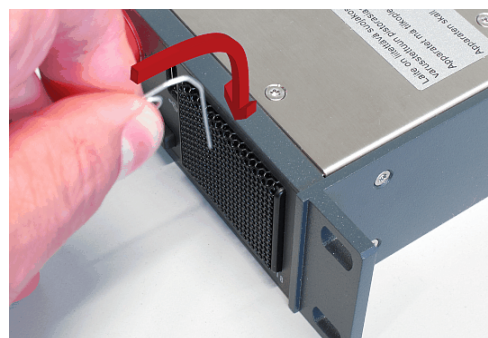
SmartPanel の再起動は設定メニューの [Service (§ 5.7)] → [Reboot Panel] から強制的に行えます。

2.7 エア・フィルターを交換する

エア・フィルターはスピーカー前面のグリル内にあります。

➤ 細い棒，例えば伸ばしたゼムクリップを，グリル上面の孔に注意しながら差し込む。

棒を深く差し込みすぎないように気を付けてください。



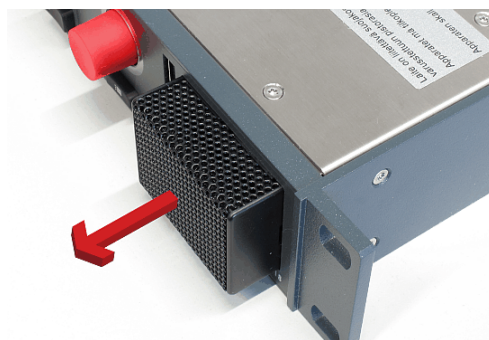
➤ グリルを注意しながら少し外側に引き出す。



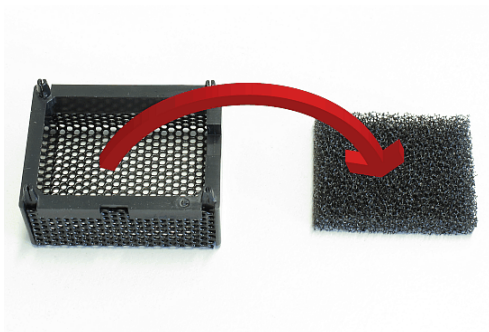
➤ 下面にもこの手順を繰り返す。



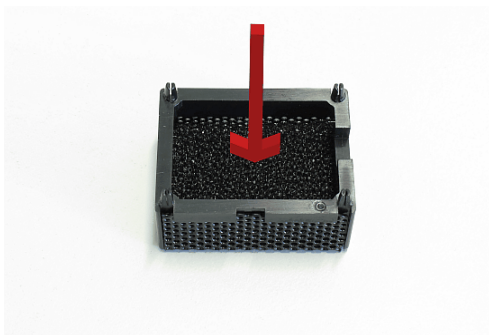
➤ グリルをパネルから抜いて外す。



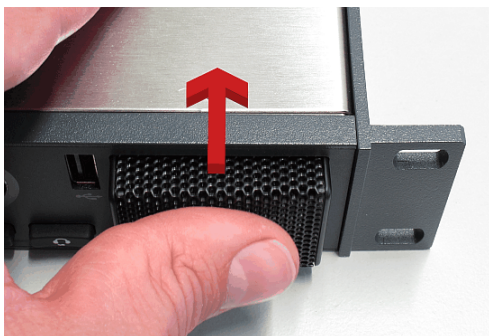
➤ エア・フィルターをグリルから外す。



➤ 新しいまたは洗浄したエア・フィルターをグリルに押し込む。



➤ グリルを注意しながらパネルにスライドさせながら戻し、平らになるよう押し固定する。



2.8 技術仕様

レベル	定格入力	+6 dBu
	定格出力	+6 dBu
	最大入力= 0 dBFS	+18 dBu
	最大出力= 0 dBFS	+18 dBu
周波数特性	パネルのマイク / ヘッドセット・マイク A & B (エレクトレット)	< 20 Hz ~> 8 kHz, -3 dB
	ヘッドセット・マイク A & B (ダイナミック)	< 8 kHz ~> 20 kHz, -6 dB
	ヘッドセットのヘッドフォン	< 20 Hz ~> 20 kHz, -0.5 dB
	音声入力 A & B	
	音声出力 A & B	
歪率 THD+N	パネルのマイク / ヘッドセット・マイク A & B (エレクトレット)	< 0.95%, 20 Hz ~ 200 Hz < 0.10%, 200 Hz ~ 20 kHz (< 0.02% @ 1 kHz)
	ヘッドセット・マイク A & B (ダイナミック)	< 0.95%, 20 Hz ~ 200 Hz < 0.25%, 200 Hz ~ 20 kHz (< 0.05% @ 1 kHz)
	ヘッドセットのヘッドフォン	< 0.001%, 200 Hz ~ 20 kHz (< 0.007% @ 1 kHz)
	音声入力 A & B	< 0.009%, 200 Hz ~ 20 kHz (< 0.008% @ 1 kHz)
	音声出力 A & B	< 0.008%, 200 Hz ~ 20 kHz (< 0.0075% @ 1 kHz)
サンプル・レート	48 kHz	
ビット解像度	24 ビット	
電源	入力電圧	AC 100-240 V
	入力周波数	50-60 Hz
	消費電力	≤ 30 W, ≤ 100 BTU/hr
寸法	幅	483 mm / 19" (446 mm) *1
	高さ	44 mm / 1 RU
	奥行き	79 mm
重量	1.7 kg	
使用環境条件	気温	0 ~ +45°C
	相対湿度	20 ~ 90% (結露なきこと)

*1) 取付金具なし

3 ESP-2324 拡張 SmartPanel

このコンパクトな新型拡張キー・パネルを RSP-2318 SmartPanel に接続すると、追加の 24 個のキーと日照下でも読みやすく広い視角がある高解像度マルチタッチ・カラー・ディスプレイ 4 個が利用可能になります。

RSP-2318 SmartPanel と ESP-2324 拡張パネル 1 台ずつの組み合わせは、わずか 2RU 内に全部で 42 個のキーと 7 個のディスプレイを提供しますが、これはインターカム市場で最も高密度となります。Riedel の RSP-2318 インターカム・アプリの PLUS と PRO は ESP-2324 拡張 SmartPanel を 4 台までサポートしますので、ユーザーは SmartPanel のコンフィギュレーションを最高 19 個のディスプレイと 114 個のキーまで拡張できます。

特徴

- 24 キー
- 4 個の高解像度高輝度ディスプレイ
- 電源内蔵
- 1RU

3.1 操作要素



図 20 : ESP-2324 (前面)

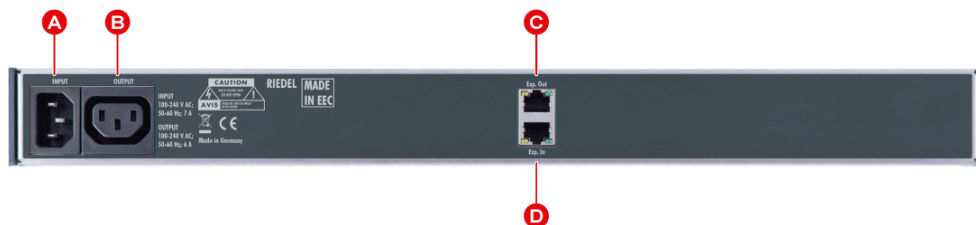


図 21 : ESP-2324 (背面)

1	キー	× 24
2	ディスプレイ	× 4
A	電源インレット (AC 入力)	× 1
B	電源アウトレット (次のパネルへの電源出力, max. 6A)	× 1
C	Exp. Out コネクタ (次の ESP-2324 への拡張コネクタ)	× 1
D	Exp. In コネクタ (1 つ前のパネルへの拡張コネクタ)	× 1

ポートとピン割り当ては [§ 9.1 『ポートとピン割り当て』](#) に記載されています。

3.2 ステータス LED

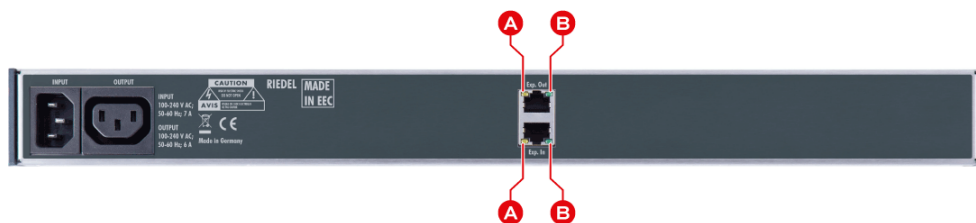


図 22 : ESP-2324 (背面のステータス LED の位置)

正常動作時のステータス LED の意味を下表にまとめました：

A	Expansion (左)	黄点等	拡張パネルへの接続あり
		消灯	接続なし
B	Expansion (右)	緑点灯	動作中
		消灯	動作なし

3.3 キーの番号付け

キーは以下のように番号が割り振られています：

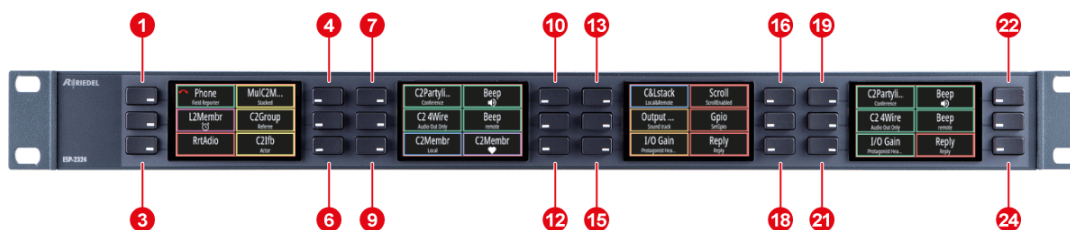


図 23 : キーの番号付け ESP-2324

3.4 ディジーチェーン接続

拡張 SmartPanel を接続するにはマスター SmartPanel (RSP-2318) と接続する必要があります。そうするにはマスター SmartPanel の EXP コネクタと拡張 SmartPanel の EXP コネクタを接続してください。また、カスケード接続も可能です。最大で 4 台の拡張パネルをカスケード接続できます。接続にはシールド付きの CAT5 パッチ・ケーブルをお使いください。

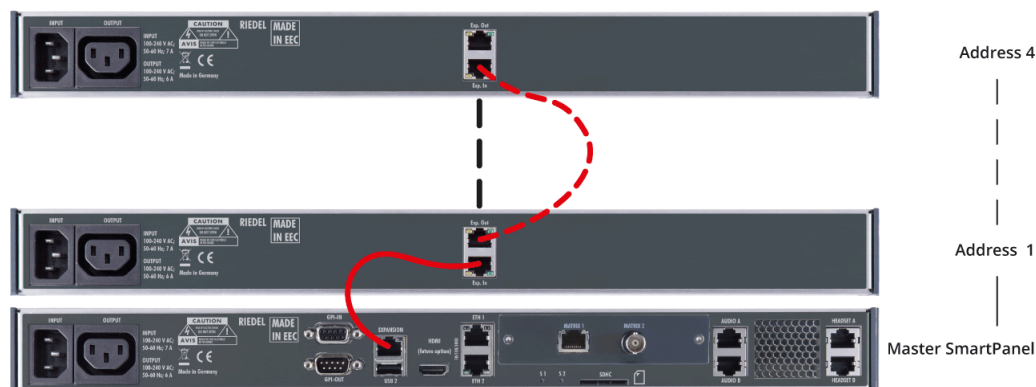


図 24 : ESP SmartPanel のディジーチェーン接続

3.5 拡張アドレス

拡張 SmartPanel に初めて主電源が供給される場合、あるいはマスター SmartPanel に接続されていない場合、右側ディスプレイ内で拡張アドレスを設定することができます。▲または▼シンボルをタッチするか、右端のキーを使って対応するアドレスを設定します。

接続は自動的に確立され、追加で確認する必要はありません。

	<p>現在設定されている拡張アドレスを変更するには、マスター SmartPanel との接続を切断する必要があります。</p>
---	---



図 25 : ESP-2324 (接続なし)

3.6 電源投入

ESP-2324 を主電源に接続し、この SmartPanel が起動するまで待ちます。

この SmartPanel がマスター SmartPanel に接続されていない限り、キー・ディスプレイには拡張 ID のセレクションが表示されます。



図 26 : キー・ディスプレイ — ESP-2324 (接続なし)

3.7 リセット

以下のキー押しはパネルを再起動します (ウォーム・スタート) :

➤ 前面の 4 つのパネル・キー (8 + 9 + 11 + 12) を同時に押す。



図 27 : ESP-2324 (リセットのキー押し)



RSP-2318 が再起動されるときに ESP-2324 も再起動されます。

(リセット (S.2.6) はこのキーの組み合わせや、設定メニュー [Service] (S.5.7) → [Reboot Panel] で開始されます)。

3.8 技術仕様

電源	入力電圧	AC 100–240 V
	入力周波数	50–60 Hz
	消費電力	≤ 30 W, ≤ 100 BTU/hr
寸法	幅	483 mm / 19" (446 mm) * 1
	高さ	44 mm / 1 RU
	奥行き	79 mm
重量	1.4 kg	
使用環境条件	気温	0 ~ +45°C
	相対湿度	20 ~ 90% (結露なきこと)

*1) 取付金具なし

4 DSP-2312 デスクトップ SmartPanel

本機は 2 個の高輝度高解像度マルチタッチ・カラー・ディスプレイと 12 個のキーを備えます。アプリによってこの多機能ユーザー・インターフェイスの機能は拡張できます。

特徴

- 12 キー
- 高輝度高解像度ディスプレイ × 2
- 電源内蔵
- USB ポート × 2
- イーサネット・コネクタ (AES67/AVB/イーサネット) × 2
- マトリクス・ポート (AES3, ライセンスにより稼動) × 2
- SD カード・スロット × 1
- 着脱式グースネック・マイクロフォン
- 交換可能なヘッドセット・コネクタ (モノ/ステレオ) × 2
- 三脚やマジックアームに使用できる 1/4" - 20 ねじ孔

4.1 操作要素

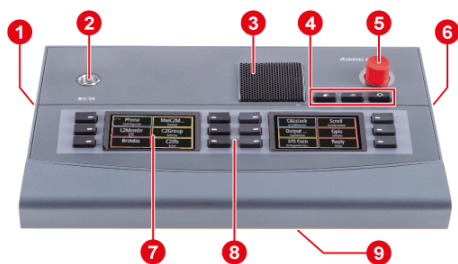


図 28 : DSP-2312 (上面)

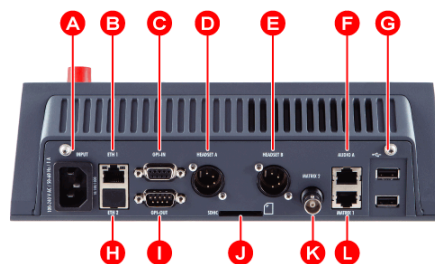


図 29 : DSP-2312 (背面)

1 6	エア・フィルター	× 2
2	パネル上のマイクフォン・コネクター	× 1
3	スピーカー	× 1
4	機能キー (Shift-Page / Menu / Headset)	× 3
5	押しボタン機能付きロータリー・エンコーダー	× 1
7	ディスプレイ	× 2
8	キー	× 12
9	1/4" - 20 UNC ネジ孔	× 3
A	電源 INPUT コネクター (AC 入力)	× 1
B	ETH1 イーサネット・コネクター (AES67/AVB) – RJ45 ポート	× 1
C	GPI-IN コネクター (入力)	× 3
D E	HEADSET コネクター	× 2
F	AUDIO A コネクター (入出力)	× 1
G	USB コネクター	× 2
H	ETH2 イーサネット・コネクター (未使用) – RJ45 ポート	× 1
I	GPI-OUT コネクター (出力)	× 3
J	SD カード・スロット	× 1
K	MATRIX 2 コネクター (AES3, ライセンシングによって稼働) – BNC ポート	× 1
L	MATRIX 1 コネクター (AES3, ライセンシングによって稼働) – RJ45 ポート	× 1



SmartPanel は AES67/AVB インターフェイスまたは AES3 インターフェイスのいずれかを介して操作できます。両方のインターフェイスを同時に接続しないでください。

ポートとピン割り当ては [§9.1 『ポートとピン割り当て』](#) に記載されています。

4.2 ステータス LED

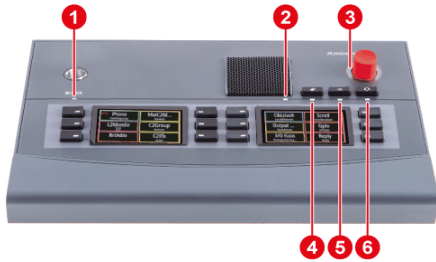


図 30 : DSP-2312 (上面のステータス LED の位置)

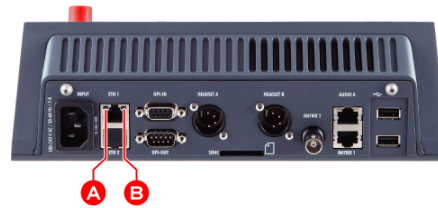


図 31 : DSP-2312 (背面のステータス LED の位置)

平常運転中のステータス LED の意味を下表に示します：

1	パネルのマイクロフォン	白点灯	パネルのマイクロフォン動作中、ヘッドセット停止中
		消灯	ヘッドセット動作中、パネルのマイクロフォン停止中
2	スピーカー	白点灯	パネルのスピーカー動作中、ヘッドセット停止中
		消灯	ヘッドセット動作中、パネルのスピーカー停止中
3	LED リング	白点灯	音量レベルを表示
4	シフト・ページ	白点灯	シフト・ページ稼動中
		消灯	シフト・ページ停止中
5	メニュー	白点灯	メニュー稼動中
6	ヘッドセット	白点灯	ヘッドセット動作中、パネルのマイクロフォンおよびパネルのスピーカー停止中
		消灯	パネルのマイクロフォンおよびパネルのスピーカー動作中、ヘッドセット停止中
A	ETH1 (左)	緑点灯	動作中
		消灯	動作なし
B	ETH1 (右)	黄点灯	インターカム・ネットワークへの 100 Mbit/s リンクあり
		緑点灯	インターカム・ネットワークへの 1 Gbit/s リンクあり
		消灯	接続なし

4.3 キーの番号付け

キーには以下のように番号が割り振られています：

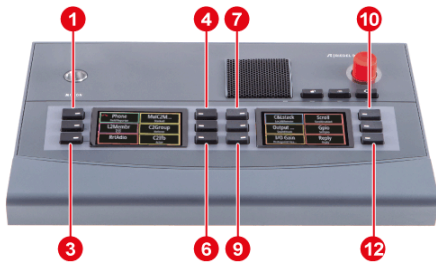


図 32：キーの番号付け DSP-2312

4.4 電源投入

DSP-2312 を主電源に接続し、この SmartPanel が起動するまで待ちます。

この SmartPanel がマトリクスに接続されていない場合、すべてのディスプレイに以下の内容が表示されます：



図 33：Artist-32/64/128 に接続されていない



図 34：Artist-1024 に接続されていない

Matrix * ¹	マトリクスへの接続状態。
Intercom * ²	
Intercom Mode * ²	現在選択されているインターカム・モードを表示します。
Clock * ¹	この SmartPanel がネットワークと同期しているかを示します。
Media Port * ²	対応する MEDIA インターフェイスに割り当てられているイーサネット・ポートを表示します。
Network	対応する MEDIA インターフェイスへの接続状態。
Address * ²	対応する MEDIA インターフェイスの IP アドレス。
IPv4 Address * ¹	イーサネット・インターフェイスの IP アドレス。

*¹) インターカム・モードにある Artist-32/64/128 のみ。

*²) インターカム・モードにある Artist-1024 のみ。

SmartPanel がマトリクスに接続するとすぐにプログラム済みのキー割り当てが表示されます。

SmartPanel が接続したマトリクスに応じてキーの表示は異なります。



図 35：Artist-32/64/128 に接続



図 36：Artist-1024 に接続

- 各キーの隣に、対応するチャンネルの名前（キー・ラベル）が表示されます。
- 2 行目は対応するチャンネルのサブタイトル（16 文字のサブタイトル）を表示します（Artist-1024 のみ）。

4.5 音量

マスター・ボリューム

SmartPanel のマスター・ボリュームは、赤色のロータリー・エンコーダーで調整します。

設定されたボリュームは、赤いロータリー・エンコーダーの周りにある LED リングによって視覚化されます。

スピーカーとヘッドセットのボリュームは、それぞれ独立して設定できます。

ロータリー・エンコーダーを押すと、スピーカーがオフになります（ミュート）。このとき、ロータリー・エンコーダーの周りにある LED リングが点滅します。



図 37：マスター・ボリューム (RSP-2312)

ポートのボリューム / ミュート操作

各チャンネルの音量はそれぞれのディスプレイをタッチした後に調整できます。キー・ディスプレイに横棒が表示されている間は、赤いロータリー・エンコーダーを回すか、対応するキー・ディスプレイで右 / 左にスワイプすることで音量を変更可能です。

赤いロータリー・エンコーダーを押すと各チャンネルがミュートされます。このとき、それぞれのキー・ディスプレイにミュート・マークが表示されます。ミュートはボリュームを完全に絞っても行えます。2 秒間操作しないと、キー・ディスプレイはチャンネルの標準表示に戻ります。



図 38：ポートのボリューム (RSP-2312)

New in 2.0 以前のファームウェア・バージョンでは、音量を変更すると必ずミュート・キーが解除されていました。現在では音量設定はミュート状態とは独立しており、キーがミュートされている状態でも音量設定ができるようになっています。

サイドトーンのボリューム

サイドトーンのボリュームは、設定メニューの [Device Settings (§ 5.1)] → [Sidetone] で調整できます (インターカム・モードにある Artist-1024 のみ)。

設定メニューを開くには、ファンクション・キー [Menu] を 1 秒以上長押ししてください。



図 39：サイドトーンのボリューム (RSP-2312)



- ・サイドトーン機能は 2300 シリーズ SmartPanel とインターカム・モードにある Artist-1024 では常時アクティブであり、Director 内で追加設定することはできません。
- ・インターカム・モードにある Artist-32/64/128 では、この機能は Director 内で SmartPanel キーに設定された場合のみアクティブになります。

4.6 リセット

以下のキー押しでパネルはリセットされます（ウォーム・スタート）：

- 前面の3つの機能キーを同時に押す（Shift-Page + Menu + Headset）.



図 40 : DSP-2312 (リセットのキー押し)

4.7 取り付け

DSP-2312 をマジックアームやマイクロフォン・スタンド上に取り付ける場合は、下図に示すステレオ・マイクロフォン用のバーのような金属のものを使うことをお勧めします。本機はアームやスタンドに横方向の支えなしにねじ孔だけで固定されますので、このことによって取り付けのぐらつきが防止されます。接続部分に広い面がないと少し安定が悪いように感じるかも知れません。

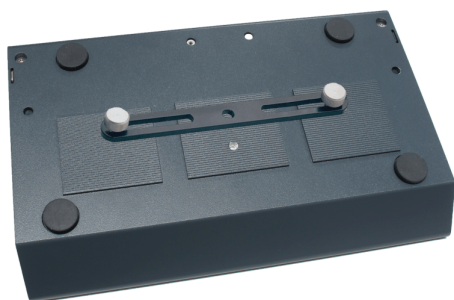


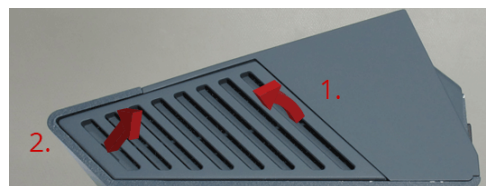
図 41 : DSP-2312 (底面)

4.8 エア・フィルターを交換する

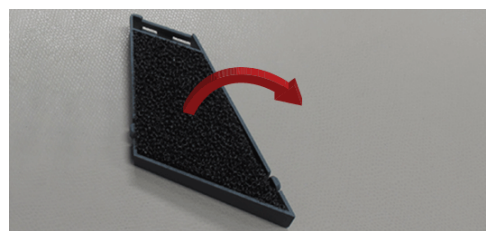
DSP-2312 デスクトップ SmartPanel には左右側面のグリル内にエア・フィルターが 2 個あります。

この例は右側のエア・フィルターの交換を図説するものです。左側のエア・フィルターは鏡映像のように左右逆の手順で行ってください。

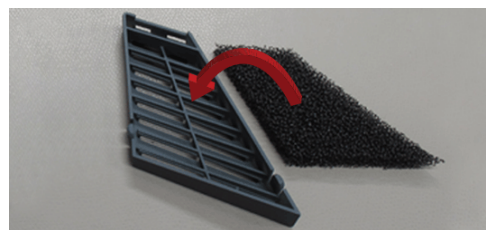
- > まず右側のグリルの後部を少し外側に引っ張る。
- > 次にグリル全体を横に引いて SmartPanel から外す。



- > エア・フィルターをグリルから取り外す。



- > 新品または清掃したエア・フィルターをグリルに押し当てる。



- > まずグリルの前部を SmartPanel にスライドして入れる。
- > 次に SmartPanel にぴったりと付くようにグリル後部を押し。




4.9 技術仕様

レベル	定格入力	+6 dBu
	定格出力	+6 dBu
	最大入力= 0 dBFS	+18 dBu
	最大出力= -4 dBFS	+14 dBu
周波数特性	パネルのマイク / ヘッドセットのマイク A & B (エレクトレット)	< 20 Hz ~> 8 kHz, -3 dB
	ヘッドセットのマイク (ダイナミック)	< 8 kHz ~> 20 kHz, -6 dB
	ヘッドセットのヘッドフォン	
	音声 A 入力	< 20 Hz ~> 20 kHz, -0.5 dB
	音声 A 出力	
歪率 THD+N	パネルのマイク / ヘッドセットのマイク A & B (エレクトレット)	< 0.95%, 20 Hz ~ 200 Hz < 0.10%, 200 Hz ~ 20 kHz (< 0.02% @ 1 kHz)
	ヘッドセットのマイク (ダイナミック)	< 0.95%, 20 Hz ~ 200 Hz < 0.25%, 200 Hz ~ 20 kHz (< 0.05% @ 1 kHz)
	ヘッドセットのヘッドフォン	< 0.001%, 200 Hz ~ 20 kHz (< 0.007% @ 1 kHz)
	音声 A 入力	< 0.009%, 200 Hz ~ 20 kHz (< 0.008% @ 1 kHz)
	音声 A 出力	< 0.008%, 200 Hz ~ 20 kHz (< 0.0075% @ 1 kHz)
サンプル・レート	48 kHz	
ビット解像度	24 ビット	
電源	入力電圧	AC 100-240 V
	入力周波数	50/60 Hz
	電力消費	typ. : 15 W, 50 BTU/hr max. : ≤ 25 W, ≤ 85 BTU/hr
寸法	幅	262 mm
	高さ	84 mm
	奥行き	179 mm
重量	1.81 kg	
操作環境条件	気温	0 ~ +45°C
	相対湿度	20 ~ 90% (結露なきこと)

5 設定メニュー

New in 2.0 2300 シリーズの SmartPanel のメニュー構造は 1200 シリーズ SmartPanel のものに合わせられました。

SmartPanel の基本的な情報と設定は設定メニュー内で表示と変更が可能です。







➤ 設定メニューを開くにはメニュー  ファンクション・キーを 1 秒以上長押ししてください。

設定メニューは一番右のスクリーンに表示され、メニューの LED が点灯します。

メニュー項目	機能
Device Settings (§ 5.1)	輝度とサイドトーンの設定
Network (§ 5.2)	ネットワークの設定
Transport (§ 5.3)	トランスポート・モード (Artist-32/64/128 または Artist-1024) の選択
MNCA Status (§ 5.4)	MediorNet Control アプリの状態を表示します
Licensing (§ 5.5)	ライセンスのインストールと表示
Matrix (§ 5.6) *1	マトリクスの情報を表示します
Service (§ 5.7)	デバイスの情報の表示、ファームウェアのアップデート、SmartPanel の再起動など

*1) インターカム・モードにある Artist-32/64/128 のみで利用可能。

設定メニュー内の操作

	<ul style="list-style-type: none"> 赤いロータリー・エンコーダーを回す。 タッチスクリーンをスワイプする。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 つ前の / 1 つ後のメニュー項目を選択する。 値 / 設定を変更する。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 赤いロータリー・エンコーダーを押す。 タッチスクリーンをタップする。 	<ul style="list-style-type: none"> メニュー項目を選択する / 1 レベル下に降りる。 現在のメニュー・レベルは右側ディスプレイの中央に表示される。 	
	BACK	<ul style="list-style-type: none"> 各アイコンをタップする。 アイコンの右側にあるキーを押す。 	メニュー項目から抜け出る / 1 レベル戻る。
	ESC		入力を取り消す。
	OK		入力を確定する。
	HOME		メニューから抜け出る / メイン・ビューに戻る。

5.1 Device Settings

Device Setting メニューでは輝度とサイドトーンの調節を行うことができます。

メニュー項目	機能	
Brightness	ディスプレイと LED の輝度の個別調節。 (10% ~ 100%, 10% ステップ)	
	LED Brightness:	LED の輝度を調節。
	Display Brightness:	ディスプレイの輝度を調節。
Sidetone * ¹	サイドトーンの音量の調節。 (-72 ~ +24)	

*¹) インターカム・モードにある Artist-1024 でのみ利用可能。

5.2 Network

Network メニューではネットワークの設定を表示 / 編集することができます。

メニュー項目	機能	
MEDIA	Media Port	AES67 ネットワークに接続されているイーサネット・ポート表示します。 (ETH1)
	IP Address	AES67 ポートの静的な IP アドレス。 注：IP アドレス 192.168.70.xxx は内部的に使用されていますので選択しないでください。
	Subnet Mask	AES67 ポートのネットワーク・マスク。
	Gateway	AES67 ポートのゲートウェイ。

5.3 Transport

Transport メニューでは SmartPanel が Artist-32/64/128 または Artist-1024 に接続するかを選択できます。

	インターカム・モードを変更すると SmartPanel は再起動します。
---	--------------------------------------

メニュー項目	機能
Intercom Mode	SmartPanel が接続する Artist マトリクス・タイプの選択。 (Artist-32/64/128, Artist-1024)
Transport Mode * ¹	Artist マトリクスへの接続に使われるプロトコルの選択。 (AES67, AES3/AVB)
TCP Port	Artist マトリクスへの接続に使われる TCP ポートの選択。 (Artist-32/64/128 : 5060, Artist-1024 : 6060)

*¹) インターカム・モードにある Artist-32/64/128 でのみ利用可能。

5.4 MNCA Status

MNCA Status メニューは MediorNet ネットワークへの接続が確立されているかどうかを表示します。

メニュー項目	機能
Primary:	<ul style="list-style-type: none"> • Online (接続されている) プライマリ / セカンダリ MediorNet マスターとの接続が確立しています。
Secondary:	<ul style="list-style-type: none"> • Offline (接続されていない) プライマリ / セカンダリ MediorNet マスターとの接続を確立できませんでした。 • N/A プライマリ / セカンダリ MediorNet マスターが定義されていません。

5.5 Licensing

Licensing メニューではライセンス情報を取得し、ライセンスをインストールすることができます。

メニュー項目	機能
Add License ...	SmartPanel にライセンスをインストールします。 §7.3 『ライセンスのインストール』 も参照してください。
Licenses	インストール済みのライセンスの一覧表示。

5.6 Matrix

Matrix メニューは接続されたマトリクスについての情報を表示します。

内容は SmartPanel がマトリクスに接続している場合のみ利用可能です。

内容は 2 つのページ上に表示されます (Page1 / Page2)。

Matrix メニューはインターカム・モードにある Artist-32/64/128 でのみ利用可能です。

ディスプレイ	位置	ページ 1	ページ 2
Display 1	Key 1	Net 接続されたマトリクスのネット番号。	Node IP 接続されたマトリクスの IP アドレス。
	Key 2	Node 接続されたマトリクスのノード番号。	
	Key 3	Bay 接続されたマトリクスのベイ番号。	
	Key 4	Port 接続されたマトリクスのポート番号。	ディスプレイの輝度. ディスプレイの輝度はキー 4 を使って調節できます。
	Key 5	Room ルーム・コードを表示します (適用されている場合)。	LED の輝度. LED の輝度はキー 5 を使って調節できます。
	Key 6	Name SmartPanel の名前。	OnCall Matrix メニューが開かれたときにアクティブな状態にある SmartPanel への入力コールの数。

ディスプレイ	位置	ページ 1	ページ 2
Display 2	Key 7	Firmware 接続されたマトリクスのファームウェアの現在のバージョン。	Date 接続されたマトリクスの現在の日付けを表示します。
	Key 8	Bootloader 接続されたマトリクスのブートローダーの現在のバージョン。	Time 接続されたマトリクスの現在の時間を表示します。
	Key 9	Emergency 接続されたマトリクスのエマージェンシー・ファームウェアの現在のバージョン。	MIC conf パネルのマイクロフォン設定はキー 9 を使って dynamic と electret の間で変更できます。
	Key 10	CurAPi アクティブなオーディオ・パッチを表示します。	HS conf ヘッドセットのマイクロフォン設定はキー 10 を使って dynamic と electret の間で変更できます。
	Key 11	Panel Artist 内のパネルの数。	—
	Key 12	Alarm 接続されたマトリクス内のアラームの数。	—
Display 3	Key 13	—	—
	Key 14	—	—
	Key 15	—	—
	Key 16	—	—
	Key 17	—	—
	Key 18	—	—

5.7 Service

メニュー項目	機能
Device-Info	Date: 現在の日付を表示します。
	FW Version: 現在のファームウェア・バージョンを表示します。
	SN#: SmartPanel のシリアル・ナンバーを表示します。
Firmware Update	Install New Firmware ... 前面の USB ポートに挿入された USB メモリーから新しいファームウェアをインストールします。USB メモリーが挿入されると、互換性のあるファームウェアがあるかどうかスキャンされます。ファームウェアがどのフォルダ（サブフォルダ）にあっても問題ありません。SmartPanel に読み込ませるファームウェアを選択できます。 §8 『ファームウェアのアップデート』 も参照してください。
	Current: 現在のファームウェアのバージョンを表示します。
Log Files	内的なログ・ファイルを USB メモリーに保存します。 このデータは Riedel のサービス部門が分析とトラブルシューティングに使用します。
	Save to USB report_*.tgz ログ・ファイルを以前に挿入された USB メモリーに保存します。このファイルは \Riedel\reports フォルダ内に書き込まれます。
Device Logs	現在のエラー・メッセージは Device Logs メニューから取得することができます。
Reboot Panel	Cancel メニュー項目から抜け出て 1 レベル戻ります。
	Reboot Panel now SmartPanel を再起動します。

6 ウェブ・インターフェイス

MediorNet Control アプリは設定用のウェブ・インターフェイスを備えています。

同一のネットワークに接続している PC 上のウェブ・ブラウザに各 SmartPanel の IP アドレスを入力してください。

SmartPanel の IP アドレスは設定メニュー → [Service] (§ 5.7) で確認できます。

(コンテンツを表示するにはブラウザは最低でも幅 1,290 × 高 810 ピクセル必要です)



図 42 : MediorNet Control アプリのウェブ・インターフェイス

- | | |
|---|---|
| 1 | Asset ドロワー (§ 6.1)
表示される内容は選択したものによって異なります。(デバイス / MediorNet Control アプリ) |
| 2 | ワークサーフェス (§ 6.2)
選択された SmartPanel のユーザー定義のキーを表示します。 |
| 3 | Parameter ドロワー (§ 6.3)
表示される内容は選択したものによって異なります。(Riedel-RSP23 / MNC Main / MNC Prev) |
| 4 | 選択項目 (§ 6.4)
プレビュー内で選択されたキーを設定する部分。 |

MediorNet Control のウェブ・インターフェイスはファームウェア・バージョン 2.0 に含まれるコンテンツと機能を表示します。その SmartPanel がライセンスを受けていない機能は灰色で表示されて使用できません。このことに関する情報は対応するアイコン上にマウスをホバーすると表示されます。

以下の例では、MediorNet Control アプリのバージョン 5 に含まれている UHD 信号のサポートが表示されています。この SmartPanel には MNCA V5 のライセンスはインストールされていないので、この機能は利用できません。



図 43 : MediorNet Control のウェブ・インターフェイス内のライセンスされていない機能

6.1 Asset ドロワー

Asset ドロワーは、MediorNet 内で切り替え可能な、または MediorNet Control アプリ内で利用可能な全信号 / オブジェクトを表示します。

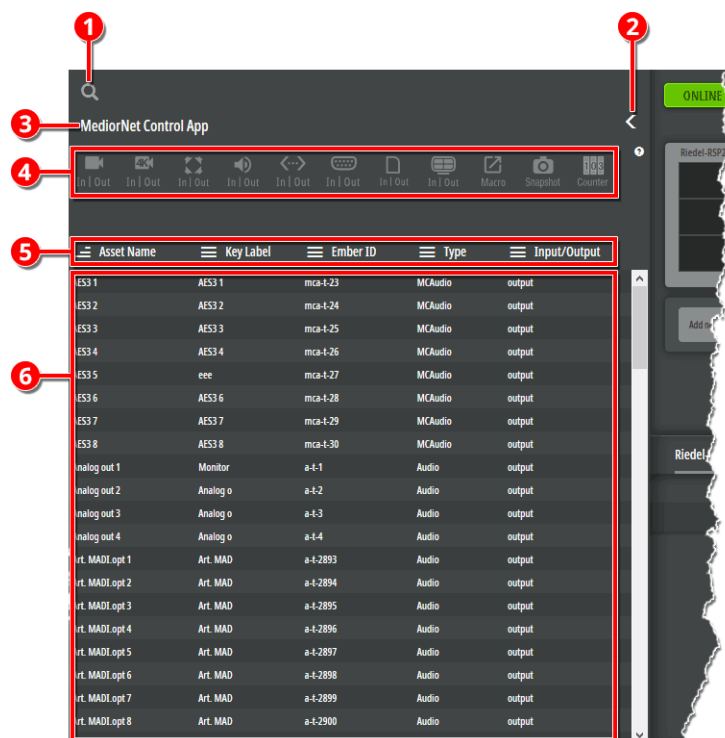


図 44 : Asset ドロワー

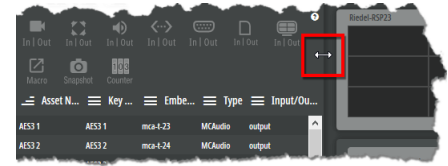
1	<p>このサーチ欄にテキストを入力することで、表示される要素にフィルターをかけます。この欄への入力を始めるとフィルタリングが開始されます。Enter キーを押す必要はありません。</p> <p>Asset ドロワーはキー・バンクの選択に基づいて自動的にフィルターがかかります (例: ビデオ入力のキー・バンク = Asset ドロワーはビデオ入力信号のみを表示します)。</p>																																		
2	<p>Asset ドロワーを表示 / 非表示にするボタン。</p>																																		
3	<p>表示される内容は選択によって異なります (Devices / MediorNet Control App)。</p> <table border="1" data-bbox="263 376 1380 450"> <tr> <td data-bbox="263 376 544 409">MediorNet-Control-App</td> <td data-bbox="544 376 1380 409">MediorNet 内で切り替え可能な、もしくは MediorNet Control アプリ内で利用可能な全信号 / オブジェクトのリスト。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="263 409 544 450">Devices</td> <td data-bbox="544 409 1380 450">ネットワーク内の全 2300 シリーズ SmartPanel のリスト。次の情報があります: ID, Name, IP Address, Device Type.</td> </tr> </table>	MediorNet-Control-App	MediorNet 内で切り替え可能な、もしくは MediorNet Control アプリ内で利用可能な全信号 / オブジェクトのリスト。	Devices	ネットワーク内の全 2300 シリーズ SmartPanel のリスト。次の情報があります: ID, Name, IP Address, Device Type.																														
MediorNet-Control-App	MediorNet 内で切り替え可能な、もしくは MediorNet Control アプリ内で利用可能な全信号 / オブジェクトのリスト。																																		
Devices	ネットワーク内の全 2300 シリーズ SmartPanel のリスト。次の情報があります: ID, Name, IP Address, Device Type.																																		
4	<p>これらのアイコンをクリックすると表示される要素にフィルターがかけられます。稼動しているフィルターは白で表示されます。アイコンを繰り返してクリックするとフィルターモードが交互にイン / アウト / オフされます。</p> <table border="1" data-bbox="263 555 1498 1205"> <tr> <td data-bbox="263 555 544 607">Video</td> <td data-bbox="544 555 1380 607">MediorNet の映像信号にフィルターをかけます。</td> <td data-bbox="1380 555 1498 607">  </td> </tr> <tr> <td data-bbox="263 607 544 667">4k-Video</td> <td data-bbox="544 607 1380 667">MediorNet の 4k 映像信号にフィルターをかけます。</td> <td data-bbox="1380 607 1498 667">  </td> </tr> <tr> <td data-bbox="263 667 544 728">Multi-channel Audio</td> <td data-bbox="544 667 1380 728">MediorNet のマルチチャンネル音声信号にフィルターをかけます (AES3, MAD)。</td> <td data-bbox="1380 667 1498 728">  </td> </tr> <tr> <td data-bbox="263 728 544 788">Audio</td> <td data-bbox="544 728 1380 788">MediorNet の音声信号にフィルターをかけます (mono, IP-audio)。</td> <td data-bbox="1380 728 1498 788">  </td> </tr> <tr> <td data-bbox="263 788 544 848">Data</td> <td data-bbox="544 788 1380 848">MediorNet のシリアル・データ信号にフィルターをかけます。</td> <td data-bbox="1380 788 1498 848">  </td> </tr> <tr> <td data-bbox="263 848 544 909">GPI</td> <td data-bbox="544 848 1380 909">MediorNet の GPI 信号にフィルターをかけます。</td> <td data-bbox="1380 848 1498 909">  </td> </tr> <tr> <td data-bbox="263 909 544 969">Key-Bank</td> <td data-bbox="544 909 1380 969">SmartPanel のキー・バンクにフィルターをかけます。</td> <td data-bbox="1380 909 1498 969">  </td> </tr> <tr> <td data-bbox="263 969 544 1030">Multiviewer</td> <td data-bbox="544 969 1380 1030">MediorNet のマルチビューワーにフィルターをかけます。</td> <td data-bbox="1380 969 1498 1030">  </td> </tr> <tr> <td data-bbox="263 1030 544 1090">Macro</td> <td data-bbox="544 1030 1380 1090">SmartPanel のマクロにフィルターをかけます。</td> <td data-bbox="1380 1030 1498 1090">  </td> </tr> <tr> <td data-bbox="263 1090 544 1151">Snapshot</td> <td data-bbox="544 1090 1380 1151">MediorNet のスナップショットにフィルターをかけます。</td> <td data-bbox="1380 1090 1498 1151">  </td> </tr> <tr> <td data-bbox="263 1151 544 1205">Counter</td> <td data-bbox="544 1151 1380 1205">MediorNet のカウンターにフィルターをかけます。</td> <td data-bbox="1380 1151 1498 1205">  </td> </tr> </table>	Video	MediorNet の映像信号にフィルターをかけます。		4k-Video	MediorNet の 4k 映像信号にフィルターをかけます。		Multi-channel Audio	MediorNet のマルチチャンネル音声信号にフィルターをかけます (AES3, MAD)。		Audio	MediorNet の音声信号にフィルターをかけます (mono, IP-audio)。		Data	MediorNet のシリアル・データ信号にフィルターをかけます。		GPI	MediorNet の GPI 信号にフィルターをかけます。		Key-Bank	SmartPanel のキー・バンクにフィルターをかけます。		Multiviewer	MediorNet のマルチビューワーにフィルターをかけます。		Macro	SmartPanel のマクロにフィルターをかけます。		Snapshot	MediorNet のスナップショットにフィルターをかけます。		Counter	MediorNet のカウンターにフィルターをかけます。		
Video	MediorNet の映像信号にフィルターをかけます。																																		
4k-Video	MediorNet の 4k 映像信号にフィルターをかけます。																																		
Multi-channel Audio	MediorNet のマルチチャンネル音声信号にフィルターをかけます (AES3, MAD)。																																		
Audio	MediorNet の音声信号にフィルターをかけます (mono, IP-audio)。																																		
Data	MediorNet のシリアル・データ信号にフィルターをかけます。																																		
GPI	MediorNet の GPI 信号にフィルターをかけます。																																		
Key-Bank	SmartPanel のキー・バンクにフィルターをかけます。																																		
Multiviewer	MediorNet のマルチビューワーにフィルターをかけます。																																		
Macro	SmartPanel のマクロにフィルターをかけます。																																		
Snapshot	MediorNet のスナップショットにフィルターをかけます。																																		
Counter	MediorNet のカウンターにフィルターをかけます。																																		
5	<p>コラムのヘッダーをクリックすると対応するコラム内の要素がソートされます。以下のコラムを利用できます:</p> <table border="1" data-bbox="263 1279 1498 1518"> <tr> <td data-bbox="263 1279 544 1317">Asset Name</td> <td data-bbox="544 1279 1380 1317">MediorNet Control アプリ内のオブジェクトの名前。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="263 1317 544 1355">Key Label</td> <td data-bbox="544 1317 1380 1355">SmartPanel のディスプレイ内に表示される通りのキー・ラベル (8 文字)。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="263 1355 544 1393">Ember ID</td> <td data-bbox="544 1355 1380 1393">Ember プロトコル内での信号の一意名。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="263 1393 544 1431">Type</td> <td data-bbox="544 1393 1380 1431">信号 / オブジェクトのタイプ (例: audio, video, macro 等)。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="263 1431 544 1469">Input/Output</td> <td data-bbox="544 1431 1380 1469">信号の方向。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="263 1469 544 1507">Description</td> <td data-bbox="544 1469 1380 1507">信号 / オブジェクトの個別説明。</td> </tr> </table>	Asset Name	MediorNet Control アプリ内のオブジェクトの名前。	Key Label	SmartPanel のディスプレイ内に表示される通りのキー・ラベル (8 文字)。	Ember ID	Ember プロトコル内での信号の一意名。	Type	信号 / オブジェクトのタイプ (例: audio, video, macro 等)。	Input/Output	信号の方向。	Description	信号 / オブジェクトの個別説明。																						
Asset Name	MediorNet Control アプリ内のオブジェクトの名前。																																		
Key Label	SmartPanel のディスプレイ内に表示される通りのキー・ラベル (8 文字)。																																		
Ember ID	Ember プロトコル内での信号の一意名。																																		
Type	信号 / オブジェクトのタイプ (例: audio, video, macro 等)。																																		
Input/Output	信号の方向。																																		
Description	信号 / オブジェクトの個別説明。																																		
6	<p>フィルターの基準に対応する全信号 / オブジェクトのリスト。</p>																																		

Asset ドロワーの個別化対応

以下の調節によって Asset ドロワーの大きさと内容を変更することができます。

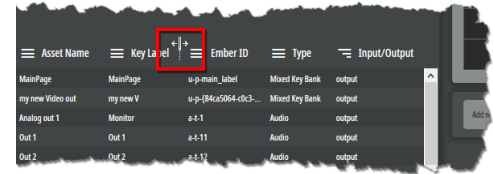
Asset ドロワーの幅を調節する

- > マウスを Asset ドロワーの右端に移動する。
- > マウスのボタンを押し下げ、↔に変わったカーソルを左右にドラッグする。



コラムの幅を調節する

- > マウスをコラムの間に移動する。
- > マウスのボタンを押し下げ、↔に変わったカーソルを左右にドラッグする。

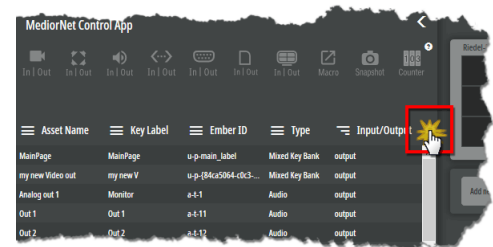


コラムの順番を変える / コラムを非表示にする

- > コラムのヘッダーにマウスをホバーすると表示される歯車アイコン (⚙️) を右クリックする。
- > 表示されるダイアログ内で、プロパティを調節したい要素をクリックして選択する。

1. コラムの順番は上下の矢印をクリックして変更できます。
2. コラムは左右の矢印をクリックして表示 / 非表示にすることができます。

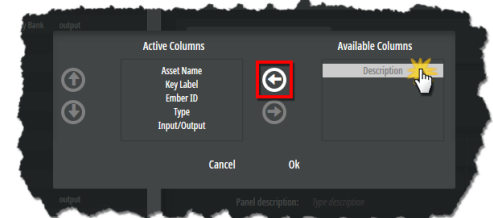
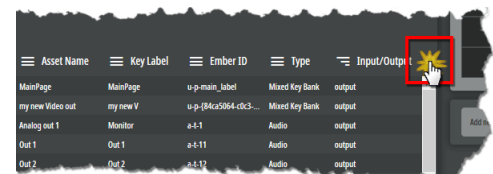
- > OK ボタンをクリックして変更を確定する。



解説を表示する

Description コラムが新たに利用できるようになりました。これは表示される各エントリーの解説です。

- > コラムのヘッダーにマウスをホバーすると表示される歯車アイコン (⚙️) を右クリックする。
- > 表示されるダイアログ内で、Description コラムを選択して稼動する。



6.2 ワークサーフェス

ワークサーフェス内では SmartPanel のユーザー定義のキー割り当てが表示され、設定されます。

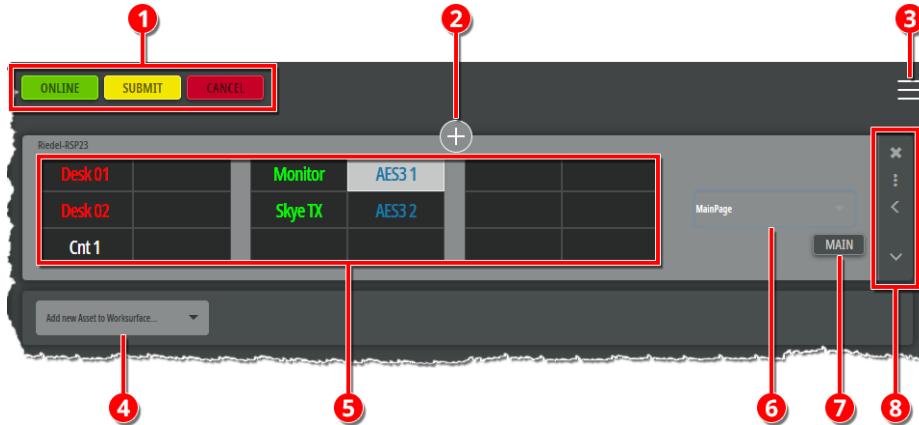


図 45: ワークサーフェス

1	ONLINE は SmartPanel への稼働中のイーサネット接続を表示します。	
	OFFLINE は SmartPanel へのイーサネット接続が途絶されたことを表示します。	
	ウェブ・インターフェイス内での変更は、接続されている SmartPanel に自動的に転送されません。このボタンをクリックすることでウェブ・インターフェイス内でのすべての変更が送られます。	
	このボタンをクリックすると、ウェブ・インターフェイス内で行った変更はすべて廃棄されます。個々の変更を取り消すには、その変更を行った時点で取り消しアイコン (🗑️) をクリックしてください。	
2	アクション・ボタン: マクロや入力キー・バンクを追加 / 削除, マクロをインポート。	
3	ウェブ・インターフェイス間の切り替え。	
	MediorNet-Control-App	MediorNet-Control アプリのウェブ・インターフェイスを開きます。
	Firmware-Update	ファームウェア・アップデートのウェブ・インターフェイスを開きます。
4	マクロを表示 / 変更するためのドロップダウン選択。	
5	SmartPanel のユーザー定義のキーの表示と変更。	
6	キー・バンクのドロップダウン選択。	
7	MediorNet Control の 2 つの個別コンフィギュレーションを SmartPanel のキーに割り当てることができます。コンフィギュレーション作業の際に、2 つのページ間で切り替えるのにこのボタンを使用します。	
	MNCA (Main) および MNCA (Shift) キー・バンクを選択することで、この 2 つのコンフィギュレーションを使用できます。	
8	各要素のプレビューを閉じるボタン・アイコン。	
	ドラッグ&ドロップを用いて、対応する要素をワークサーフェス上で縦方向に移動して新たな場所に配置できます。	
	各 SmartPanel の MediorNet Control ライセンスのシリアルナンバーを表示させるボタン。	
	各 SmartPanel の GPI エリアを開くボタン。	

6.3 メイン・メニュー

右上にあるメイン・メニューではパネルのファームウェアをアップデートすることができます。



図 46: メイン・メニュー

6.3.1 Firmware Manager



図 47: SmartPanel のウェブ・インターフェイス

1	<p>アセット・リスト</p> <p>このリストはネットワーク上で見つかったすべての 1200 および 2300 シリーズ SmartPanel を表示します。このビューは矢印アイコンを使ってグループ化できます。</p>						
2	<p>ファームウェア・アップデート・ボタン</p> <p>ファームウェアをアップデートするためのボタン。10 台までの SmartPanel を並行してアップデートできます。</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>SELECT FW</td> <td>ファームウェア・ファイル (.cfw) を選択するためのダイアログを開きます。</td> </tr> <tr> <td>INSTALL</td> <td>選択されたファームウェアを SmartPanel にインストールします。</td> </tr> <tr> <td>REBOOT</td> <td>SmartPanel を再起動します。</td> </tr> </tbody> </table>	SELECT FW	ファームウェア・ファイル (.cfw) を選択するためのダイアログを開きます。	INSTALL	選択されたファームウェアを SmartPanel にインストールします。	REBOOT	SmartPanel を再起動します。
SELECT FW	ファームウェア・ファイル (.cfw) を選択するためのダイアログを開きます。						
INSTALL	選択されたファームウェアを SmartPanel にインストールします。						
REBOOT	SmartPanel を再起動します。						
3	<p>Auto Reboot</p> <p>このスイッチが稼働されている場合、SmartPanel はアップデート後に自動的に再起動します。このスイッチが稼働されていない場合、アップデート後にユーザーは REBOOT ボタンを使って SmartPanel を手動で再起動する必要があります。</p>						
4	<p>Sync Device Group</p> <p>このスイッチが稼働されている場合、見つかった全 SmartPanel のファームウェアがアップデートされます。このスイッチが稼働されていない場合、ファームウェアは個々の SmartPanel でアップデートできます。</p>						

6.4 Parameter ドロワー

Parameter ドロワーでは、現在選択されている要素に応じて、変更可能な内容が表示されます。
以下のタブが利用できます：MNC Main, MNC Prev, Macro.

MNC Main

ワークサーフェス上で **SmartPanel** を選択するとこのタブが表示されます。

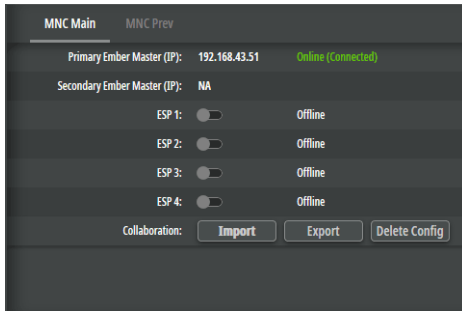


図 48 : MNC Main (Parameter ドロワー)

Primary Ember Master (IP)	プライマリおよびセカンダリ MediorNet マスターの IP アドレス。	
Secondary Ember Master (IP)	プライマリ MediorNet フレーム (サードパーティー・マスター) が MediorNet フレームと SmartPanel との間の通信を担当します。誤動作した場合、第 2 の MediorNet フレームが通信を引き継ぎます。	
ESP 1 – 4	拡張パネルの表示 / 非表示を切り替えます。	
Collaboration	コンフィギュレーションをインポートするボタン。	Import
	コンフィギュレーションをエクスポートするボタン。	Export
	SmartPanel キーと設定を削除するボタン。	Delete Config

MNC Prev

ワークサーフェス上で **SmartPanel** を選択するとこのタブが表示されます。

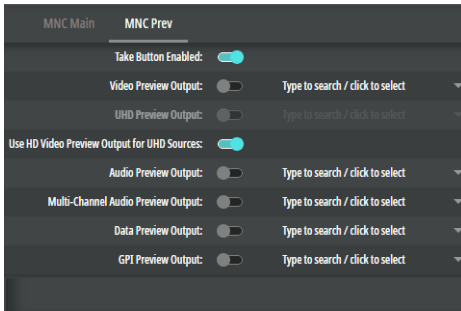


図 49 : MNC Prev (Parameter ドロワー)

Take Button Enabled	このスイッチを稼動すると、入力信号が出力にルーティングされる前に SmartPanel 内に「Take」ボタンが表示されます。このボタンは信号をルーティングする場合の確定として機能します。
Preview Output (Video, UHD, Audio, Multi-channel Audio, Data, GPI)	それぞれのスイッチを稼動すると、ルーティングされるべき信号は、「Take」ボタンを押すことによってルーティングされる前に、まずプレビュー出力にルーティングされます。プレビュー出力はスイッチの隣にあるテキスト欄内で定義されます。この機能は「Take Button Enabled」機能を稼動した場合のみ利用可能です。

Macro

このタブはワークサーフェス上で **Macro** が選択されると表示されます。

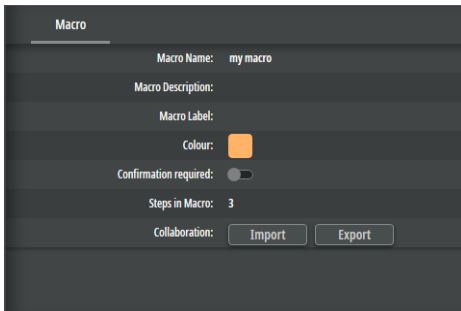


図 50 : Macro (Parameter ドロワー)

Macro Name	マクロの名前.	
Macro Description	マクロの解説文を入力できるテキスト欄.	
Macro Label	マクロ名の代わりにキー上に表示される個別のキー・ラベルを入力できるテキスト欄.	
Colour	カスタム・カラーの選択.	
Confirmation required	マクロが実行される前に SmartPanel 上で確認ダイアログを稼動させるスイッチ.	
Steps in Macro	マクロ内のコマンドの数.	
Collaboration	マクロをインポートするボタン.	Import
	マクロをエクスポートするボタン.	Export

6.5 選択項目

この区画はワークサーフェス上で **Key**, **GPI**, **Macro** が選択されると表示され、ここでは要素の編集が可能です。

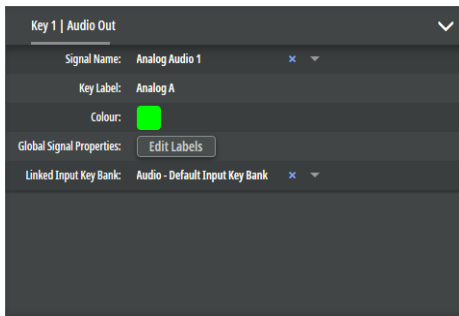


図 51：選択項目

Signal Name	キーに割り当てられる信号を定義するためのドロップダウン・リスト。
Key Label	信号名の代わりに表示されるキー・ラベルを表示します。 キー内には 8 文字まで表示されます。
Colour	カスタム・カラーの選択。
Global Signal Properties	キーの Description, Label, Colour を変更するためのダイアログを開くボタン。 Edit Labels
Linked Input Key Bank ^{*1}	このキーに割り当てられている入力キー・バンクをリスト選択します。
Confirmation required ^{*2}	マクロが実行される前に SmartPanel 上で確認ダイアログを稼働させるスイッチ。
Edit Macro Steps ^{*2}	各マクロを開いて変更するためのボタン。

*1) キーのみ。


*2) マクロのみ。

7 SmartPanel アプリ / ライセンス

ファームウェア・バージョン 2.0 は以下のアプリを含んでいます：

アプリ名	ライセンス	バージョン	解説
Intercom (§ 7.1)	INT_BASIC	2.0	インターカム機能用の標準アプリ。
	INT_PLUS		
	INT_PRO		
MediorNet Control (§ 7.2)	MNCtrl	5.0	MediorNet Control は SmartPanel のユーザー定義のキーを使う MediorNet チャンネルのルーティングを特徴とします。

ライセンスのインストールについては [§ 7.3 『ライセンスのインストール』](#) で解説します。

	以下の節では RSP-2318 を例に機能を説明します。 操作はどのタイプの SmartPanel でも基本的に同じですが、キー・ラベルの配置が異なる場合があります。異なる操作については、適切な箇所の説明を参照してください。
---	---


7.1 インターカム・アプリ

SmartPanel 用のこの最初のアプリは SmartPanel を独創的でインテリジェントなインターカム・パネルへと変貌させます。

Riedel のインターカム・アプリはハードウェア・コンポーネントを変更することなく素早く簡単に希望するエディションにアップグレードできます。

Intercom App (INT)	Basic	Plus	Pro *
インターカム・キーの数	12	12	18
マルチタッチ・ディスプレイの数	2	2	3
GPI (入力 / 出力)	X	3/3	3/3
音声入出力 A	X	✓	✓
音声入出力 B	X	X	✓
ヘッドセット A	✓	✓	✓
ヘッドセット B	X	✓	✓
拡張パネル*	X	✓	✓

*) RSP-2318 のみ

	このアプリはライセンス・ファイルを必要とします (INT_BASIC / INT_PLUS / INT_PRO)。 詳しくは § 7.3 『ライセンスのインストール』 を参照してください。
---	---

7.1.1 操作

この節では SmartPanel のインターカム・アプリの一般的な操作について説明します：

キーの機能

各キーを作動させるにはそのキーを押してください。稼働された機能は関連するキー・ディスプレイに表示されます。

キーの動作モードは Director 内での設定に依存します：momentary, latching, automatic (短く押す=ラッチ, 長押し=モメンタリー).

New in 2.0 2300 シリーズ SmartPanel は, Artist-1024 または Artist-32/64/128 に接続したかに応じてユーザー・インターフェイスが変わります.



図 52 : キーの機能 (Artist-1024)



図 53 : キーの機能 (Artist-32/64/128)

キー・ディスプレイの機能 (Secondary Function ドロワー)

ディスプレイに 0.5 秒間タッチすると Secondary Function ドロワーが開きます。このダイアログは 3 秒間操作がないと消えます。

この機能は SmartPanel が Artist-1024 に接続している場合のみに利用可能です。



図 54 : キーの表示機能 (Secondary Function ドロワー)

以下のセカンダリ機能が利用可能です：

アイコン	機能
	このアイコンに触れている間、リモート・パネルにピープ音を送ります。
	対応するチャンネルの音量を定格レベルに設定します、またはミュート動作を解除します。
	出力される音声 (Talk) のリモート・パネル上でのリスニング機能を稼働します (リモート・パネルのモニターは Artist/Director 8.3 を必要とします)。
	モニターのオフ / オートリスンのオフ リスニング機能を再度オフにします。
	空のキー (コンフィギュレーションなし) に Copy-Reply 機能を設定します。
	Copy-Reply 機能を削除します。
	電話のダイヤル・キーパッドを開きます。
	スクロール・リストまたはリブライ・スタックを開きます。
	IFB またはカンファレンスを編集する機能。
	コールを確立します。
	コールを終了します。


7.1.1.1 操作：Artist-32/64/128

New in 2.0 2300 シリーズ SmartPanel は, Artist-1024 または Artist-32/64/128 に接続したかに応じてワークフローとユーザー・インターフェイスが変わります.

Artist-32/64/128	Artist-1024
✓	✗

この節では SmartPanel が Artist-32/64/128 に接続された場合のインターカム機能の操作を解説します.

スクロール・リスト

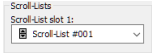


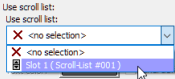
スクロール・リストへのアクセスは Director ソフトウェア内で稼動する必要があります. Artist-32/64/128 に接続した場合, SmartPanel は 1 つのスクロール・リストにしか割り当てできません.

- 各 SmartPanel を右クリック → [Properties] → [General] タブ → [Scroll-List slot 1...5]

この SmartPanel の各キー上では, 割り当てたスクロール・リストは次のようにしてアクティブして使用します.

- 各キーを右クリック → [Properties] → [General] タブ → [Use scroll list]





- 各スクロール・リストのキーの表示を 1 秒間タッチして, Director 内で設定したスクロール・リストを呼び出す.



ディスプレイ内に SEARCH, DIAL, CANCEL が表示されます.

- SEARCH キーを押すことで, 機能は名前をサーチして (アルファベット順または機能のタイプ順) スクロール・リストから選択できる.



- その直後に赤いロータリー・ノブを用いて Search (アルファベット順のサーチ) または C2/L2 Port (機能のタイプ順のサーチ) を選択し, 赤いロータリー・ノブを押して選択を確認する.



または

- 対応するキーパッド・ショートカットの直接入力によって機能を選択するには **DIAL** キーを押す.

または

- **CANCEL** キーを押して操作を取り消す.



アルファベット順の名前サーチ：

(SEARCH → [Search] を選択した後)

名前の最初の文字が点滅します。

- ロータリー・ノブを回して最初の文字を選択する.
- ロータリー・ノブを押して確定する.
- そこから選択する複数の機能がある場合は、次の文字を選択して確定する.
- 希望する機能に到達するまで続ける.



機能のタイプによる選択：

(SEARCH → C2 Port/L2 Port を選択した後)

- 以前に選択した機能グループから、利用可能な機能をロータリー・ノブを回して選ぶ.
- ロータリー・ノブを押して確定する.



キーパッドを用いる選択：

(DIAL を選択した後)

➤ 3桁のキーパッド・ショートカットの最初の数字を、対応する数字 (0～9) にタップすることで入力する。

- 利用可能な数字は緑色で表示され、利用できない数字は暗い灰色で表示される。
- 最後に入力した数字を削除するには **CLR** キーを使う。
- 最後に入力した数字を削除するには **CANCEL** キーを使う。
- Quit キーは操作を取り消す (数字が入力されていない場合)。



最後の数字が選択されると、利用可能な機能がディスプレイに直接表示されます。

➤ 希望する機能を押し、それを対応するスクロール・リストのボタンに稼動させる。



Edit IFB

- Edit IFB 機能を設定するキーを押す.



その Edit IFB ボタンの黄色いエレメントが緑色に変わり、編集可能な IFB と利用可能なソース（4ワイヤー）が赤いマーカーで表示されます。

- 対応するボタンを押すことで、編集する IFB を選択する.



選択された IFB およびこの IFB の現在選択されているソースが緑色のマーカーで表示されます。利用可能なソースは赤いマーカーで表示されます。

- 選択した IFB に新しいソースを、対応する 4 ワイヤのボタンを押すことで割り当てる.



新しいソースのマーカーは赤から黄色を経て緑色に変わります。この変更はシステム全体にわたって適用され、同じコンフィギュレーションを持つ他のパネル上にも表示されます。



- 編集する他の IFB を選択する.

または

- Edit IFB ボタンを押して機能を停止する.



Reply Stack へのアクセス

➤ Reply キーのキー・ディスプレイを 1 秒間以上タッチして Reply Stack を呼び出す。



ディスプレイは最後のコールを表示します。

コールは時系列順にスクロールできます。最後のコールは第 1 番目に、その 1 つ前のコールは第 2 番目に (以下同様)。したがって最初のコールが最後になります (20 個まで)。



➤ Reply キーを使って呼び出したいコールを選択する：

- 最後のコールから最初のコールの向きに移動する (1 ~ 20) :
 - ローターリー・ノブを時計回りに回転する。



または

- 最初のコールから最後のコールの向きに移動する (20 ~ 1) :
 - ローターリー・ノブを反時計回りに回転する。



➤ 選択を確定する：

- Reply キーを押す。
- ローターリー・ノブを押す。
- 機能から抜け出てバックグラウンドが明るく表示されなくなるまで待つ。ディスプレイ内で選択されたコーラーが処理を引き継ぐ。



7.1.1.2 操作：Artist-1024


New in 2.0 2300 シリーズ SmartPanel は, Artist-1024 または Artist-32/64/128 に接続したかに応じてワークフローとユーザー・インターフェイスが変わります.

Artist-32/64/128	Artist-1024
✓	✗

この節では SmartPanel が Artist-1024 に接続された場合のインターカム機能の操作を解説します.

Telephone Dial


➤ キーの Secondary Functions ドロワー ([§7.1.1](#)) を開く :

➤ キーパッド・アイコン  を選択する.

ディスプレイにダイヤルのキーパッドが表示されます.

➤ ダイヤルのキーパッドを使って希望する番号を入力する.



➤ 最後に入力した数字を削除するには  アイコンを押し, 次いで正しい数字を入力する.



➤ コールを開始する :

• 緑色の  をタップする.

• 緑色の  の右側にあるキーを押す.



または

➤ コールを取り消す :


• 赤い  をタップする.

• 赤い  の右側にあるキーを押す.



スクロール・リスト

- > キーの Secondary Functions ドロワー (§7.1.1) を開く.
- > リスト・アイコン ≡ を選択する.

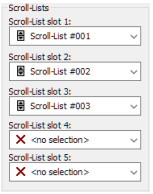
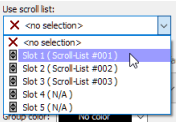


スクロール・リストへのアクセスを Director ソフトウェア内で稼動する必要があります。SmartPanel には 5 個までの個別スクロール・リストを割り当てることができます。

- 各 SmartPanel を右クリックして [Properties] → [General] タブ → [Scroll-List slot 1...5]

この SmartPanel の各キー上では、次のようにアクティベートして割り当て済みスクロール・リストを使用します。

- 各キーを右クリックして [Properties] → [General] タブ → [Use scroll list]

リスト選択がディスプレイに表示されます。

≡ および ≡ アイコンを使用して、リスト選択と数字選択の間をいつでも切り替えることができます。



リスト選択の操作：

> スクロール・リストから機能を選択する：

- ディスプレイを縦方向にワイプしてタッチする。
- ロータリー・ノブを回す。
- 希望する機能の左側のキーを押す。



> 選択を確定する：

- 緑色の ✓ をタップする。
- 緑色の ✓ の右側にあるキーを押す。
- 赤いロータリー・ノブを押す。



または


> 操作を取り消す：

- 赤い ✕ をタップする。
- 赤い ✕ の右側にあるキーを押す。



数字選択の操作：

➤ 3桁のキーパッド・ショートカットの最初の数字を、対応する数字（0～9）にタップすることで入力する。

- 利用可能な数字は明るく、利用できない数字は暗く表示される。
-  アイコンは最後に入力した数字を削除する。





最後の数字を選択すると、利用可能な機能がディスプレイに直接表示されます。

➤ スクロール・リストから機能を選択する。





➤ 選択を確定する：

- 緑色の  をタップする。
- 緑色の  の右側にあるキーを押す。
- 赤いロータリー・ノブを押す。


または

➤ 操作を取り消す：

- 赤い  をタップする。
- 赤い  の右側にあるキーを押す。



Edit Conference

- > カンファレンス・キーの Secondary Functions ドロワー (S7.1.1) を開く.
- > 編集アイコン  を選択する.



New in 2.0

Edit Conference 機能はキー・コマンドではありませんが、キーのプロパティ内の対応するカンファレンスについて Director 内でアクティベートする必要があります。



- 各カンファレンス・キーで右クリックして [Properties] → [Conference] タブ
- チェックボックス Use this command to select the destination conference during an Edit Conference operation にチェックを付ける

ディスプレイは全カンファレンスおよび DYNACONF メンバーを表示します。

- > 希望するメンバーまで移動する：

- ディスプレイを縦方向にワイプする.
- ロータリー・ノブを回す.



各メンバーのトーク（送話）/ リッスン（受話）権限は左側 / 右側の緑色の  /  で表示されます。

- > トークとリッスンについての個々のメンバーのパーミッションは対応するパーミッションのアイコンをタップして切り替える.





- > メンバーは名前（中央）をタップすることで稼働 / 停止する.

非選択のメンバーと全 DYNACONF メンバーはリスト内に留まります。



- > 選択を確定する：

- 緑色の  をタップする.
- 緑色の  の右側にあるキーを押す.
- 赤いロータリー・ノブを押す.

または




➤ 操作を取り消す：

- 赤い **X** をタップする.
- 赤い **X** の右側にあるキーを押す.



Edit IFB

- > IFB キーの Secondary Functions ドロワー (§7.1.1) を開く.
- > 編集アイコン  を選択する.



New in 2.0

Edit IFB 機能はキー・コマンドではありませんが、キーのプロパティ内の対応する IFB について Director 内でアクティベートする必要があります。

- 各 IFB キーで右クリックして [Properties] → [Call to IFB] タブ
- チェックボックス Enable for Edit IFB operation にチェックを付ける



利用可能なソース (ミックスマイナス) が表示されます。
現在選択されているソースは白い枠で囲まれます。

> 希望するソースまで移動する：

- ディスプレイを縦方向にワイプする。
- ロータリー・ノブを回す。
- 希望するソースの左側のボタンを押す。





> 選択を確定する：

- 緑色の  をタップする。
- 緑色の  の右側にあるキーを押す。
- 赤いロータリー・ノブを押す。



または


> 操作を取り消す：

- 赤い  をタップする。
- 赤い  の右側にあるキーを押す。



Reply Stack Access

- Reply キーの Secondary Functions ドロワー (S7.1.1) を開く.
- リスト・アイコン ≡ を選択する.

	<p>New in 2.0</p> <p>Secondary Functions ドロワーを介する Reply Stack へのアクセスを有効にするには、Director 内の Reply キーのプロパティ内で Enable Scroll 機能を稼動する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 各 Reply キーで右クリックして [Properties] → [Reply] タブ • チェックボックス <input checked="" type="checkbox"/> Enable Scroll function にチェックを付ける
---	--

ディスプレイは直近 20 個のコールを表示します。

- Reply Stack の一番上に持ってきたいメンバーまで移動する：

- ディスプレイを縦方向にワイプする.
- ロータリー・ノブを回す.
- 希望するメンバーの左側のボタンを押す.



- 選択を確定する：

- 緑色の ✓ をタップする.
- 緑色の ✓ の右側にあるキーを押す.
- 赤いロータリー・ノブを押す.




または

- 操作を取り消す：


- 赤い ✕ をタップする.
- 赤い ✕ の右側にあるキーを押す.



Copy Reply (または Remove Copy Reply)

- 空のキー (または Copy-Reply キー) の Secondary Functions ドロワー (5.7.1.1) を開く.
- Replay Stack から一番上のエントリーをこの空のキーにコピーするにはコピー・アイコン  を選択する.




- このキーから Copy Reply 機能を削除するには Remove-Copy アイコン  を選択する.




Copy Reply は設定されていないキーでのみ利用可能です。これは設定済みのキーが間違っても変更されるのを防止するものです。

Monitor, Autolisten Off

- キーの Secondary Functions ドロワー ([§7.1.1](#)) を開く.
- このキーの Monitor 機能を稼動するにはモニター・アイコン  を選択する.



- このキーの Monitor/Autolisten 機能を停止するには Remove-Monitor アイコン  を選択する.



- Monitor および Listen 機能は 1 つのキーの上で同時に有効にすることはできません.
- Monitor 機能は Artist/Director ファームウェア 8.3 およびそれ以降でサポートされています.

入出力ゲインを設定する

➤ Set Input/Output Gain 機能のあるキーの Secondary Functions ドロワー (§7.1.1) を開く.

➤ 入力ゲインと出力ゲインのどちらを調節したいかを選択する.

- IN GAIN または OUT GAIN の隣にあるキーを押す.
- IN GAIN または OUT GAIN をタップする.



キー・ディスプレイは現在の選択を表示します.

➤ 対応するディスプレイを 1 回タップする :



キー・ディスプレイに水平のバーが表示されている間、ゲインは対応するキー・ディスプレイ内で変更できます :

- ディスプレイ内を横方向にワイプする.
- ロータリー・ノブを回転する.



キー・ディスプレイに水平のバーが表示されている間、チャンネルはミュートすることができます :

- 赤いロータリー・ノブを押す.
- ボリュームを完全に絞り切る.
 - ディスプレイ内で左端までスワイプする.
 - ロータリー・ノブの左一杯に絞り切る.



2 秒間以上操作がないと、ディスプレイはチャンネルの標準的なビューの表示に戻ります.



• Set Input/Output Gain 機能は Artist/Director ファームウェア 8.3 およびそれ以降でサポートされています.

7.1.2 キー・ディスプレイ

キー・ディスプレイは以下の要素を表示します：

- ポートの名前（キー・ラベル）
- サブタイトル（16文字のサブタイトル、Artist-1024のみ）またはアイコンによるシグナライゼーション（信号通知：Signalization）



図 55：サブタイトルおよびアイコンのあるキー・ディスプレイ

個々のキー・ディスプレイの設定は Director ソフトウェア内で行われます。

各キーのポート名とサブタイトルを入力します。

- 対応するキーを右クリックして：[Properties] → [General] タブ → [Key Label] / [16-char Subtitle].
- 名前とサブタイトルは [Define automatically] が停止している場合にのみ入力できます。
- キー・ディスプレイ内にサブタイトルを表示するには [Show Subtitle] を稼動する必要があります。

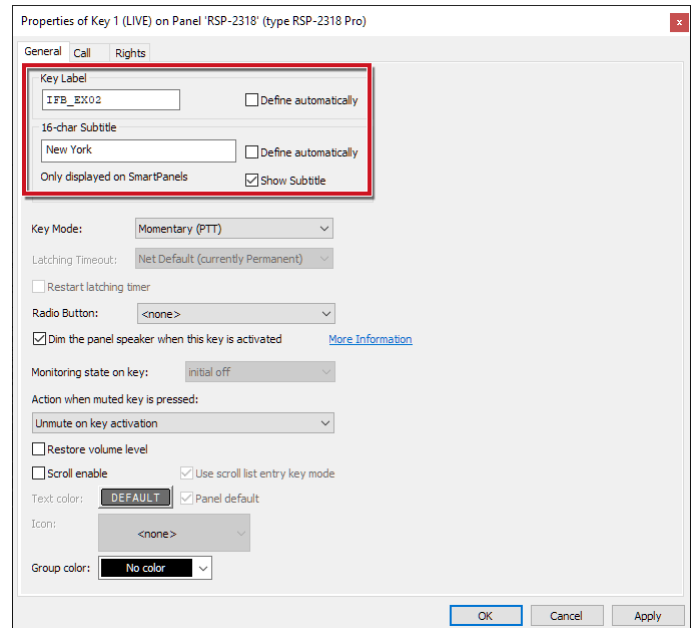


図 56：Director 内でのキーの名前 / サブタイトル

各ボタンのアイコンを設定します。

- 対応するキーを右クリックして：[Properties] → [General] タブ → [Icon].
- アイコンは [Show Subtitle] が停止している場合にのみ選択できます。

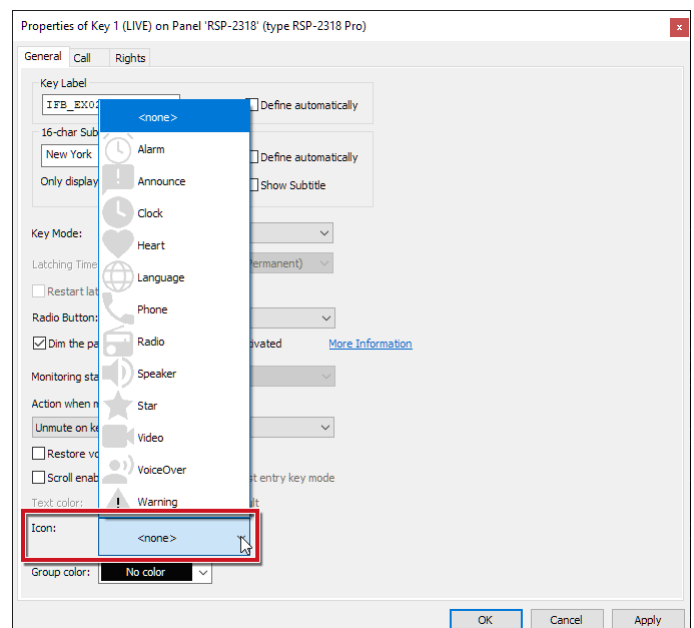


図 57：Director 内のキーのアイコン

シグナライゼーション

信号	表示	解説
コール (入力)		コールが有効な間、キー・ディスプレイは明るく強調表示されます。
コール (有効, 出力)		左上にあるマイクのアイコンは有効な出力コールを表示します。
ミュート (有効)		右上の赤いミュート・アイコンはミュートされているポートを表示します。
モニター (有効)		右上の耳アイコンはモニターされているポートを表示します。
ビープ (入力)		このベルのアニメーション・アイコンは受信しているビープがどこから来ているかを示します。
ビープ (出力)		このベルのアニメーション・アイコンはユーザーがリモート・パネルにビープを送っていることを示します。
使用されているポート		このアイコンはリモート・パネルが現在コール状態にあることを示します。
ロックされている		このアイコンは Remote Key 機能によってキーがロックされていると表示されます。キーがロックされているときはキー・アクションをトリガーすることができません。
オフライン状態		このアイコンは現在リモート・パネルに到達不能であることを示します。

7.1.3 キー・グループ

SmartPanel のキーは、視覚的な識別がし易いように色を使って 16 個のグループに分けることができます。



図 58 : キー・グループの例

グループ・カラー機能の稼動と個々のキーのカラー設定は Director ソフトウェア内で行われます。

グループ・カラー機能の稼動：

- 対応する SmartPanel を右クリックして [Properties] → [UI Config] タブ → [Group color].

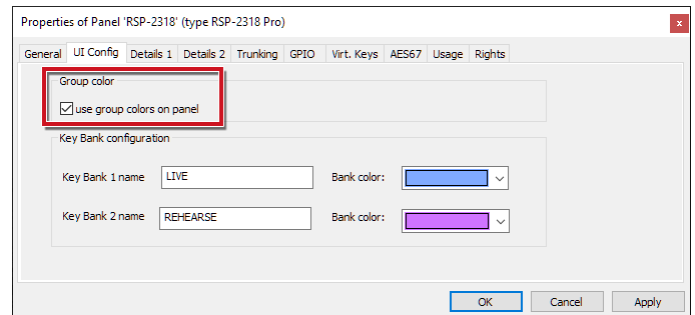


図 59 : Director 内でのグループ・カラーのアクティベーション

各キーのグループ・カラーを定義する：

- 対応するキーを右クリックして [Properties] → [General] タブ → [Group color].

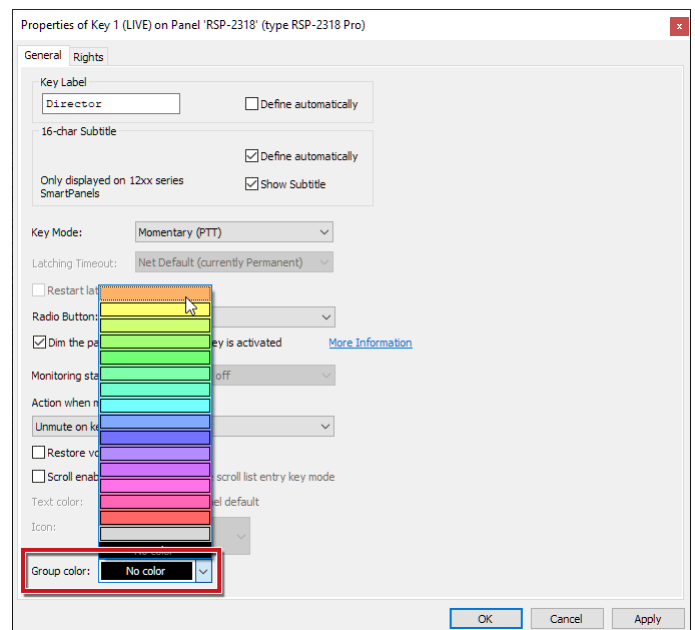


図 60 : Director 内でのキーのグループ・カラー

7.1.4 キー・バンク

キー・バンク——シフト・ページの新しい形——とは、呼び出すアプリによって異なる機能をキーに割り当てる、異なるレイヤーのことです。

キー・バンクは  「キー・バンク」ファンクション・キーを短く押すと表示されます。

右側のディスプレイには、2つのインターカム・キー・バンク（ライセンスがある場合は2つのMNCAキー・バンク）が色の付いた枠付きで表示され、アクティブなキー・バンクは強調表示されます。

ディスプレイ上の各名称を短くタッチすることで切り替えが可能です。

キー・バンクはインターカム・モードにある Artist-32/64/128 および Artist-1024 で表示されます。

1つ違う点は、Artist-1024 モードの Shift-Page LED は、キー・バンク・ビューを開いているときに点灯することです。

アクティブにしたキー・バンクの色は、ディスプレイの周囲の枠として表示されます。

Artist-32/64/128 モードでは、Shift-Page LED はシフト・ページ上にあることを示します。このモードでは色の付いた枠が表示されないためです。



図 61：選択されたキー・バンク 1 のビュー（例 LIVE）



図 62：選択されたキー・バンク 2 のビュー（例 REHEARSE）

キー・バンクの名前と色は Director ソフトウェアで入力 / 選択できます。

- 各 SmartPanel を右クリックして [Properties] → [UI Config] タブ → [Key Bank configuration].

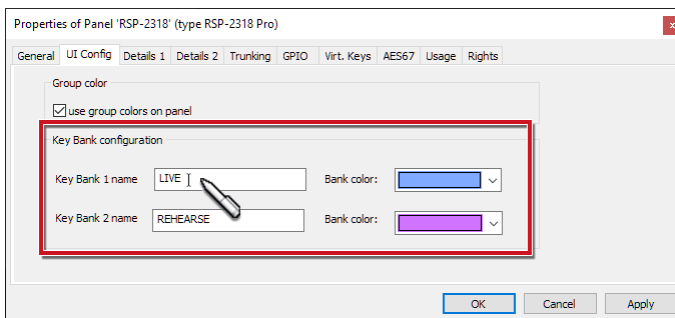


図 63：Director 内でのキー・バンクの名前 / カラー

7.2 MediorNet Control アプリ

New in 2.0 SmartPanel ファームウェア・バージョン 2.0 には MediorNet Control アプリ [MNCA] のバージョン 5.0 が含まれています。

MNCA は定義済みの RSP/ESP SmartPanel のキーによって MediorNet のルート切り替えを行えるようにします。

1 台のメイン RSP-2318 を用いて 4 台までの ESP-2324 を設定できます。

MediorNet Control App (MNCA)	Basic
RSP 上で動作 (コントロールキーの数)	✓ (18)
DSP 上で動作 (コントロールキーの数)	✓ (12)
シフト・ページ	✓
ESP 上で動作	✓ (RSP-2318 と共に)
プロトコル	Ember+
音声 / 映像 / GPI / データ / マルチチャンネル音声数	34/34/34/34/34
マクロの深さ	100 コマンド
MediorNet サードパーティー ID の数	250
MN-Control が動作するネットワーク毎のパネル数	25
パネルのマイク, パネルのスピーカー	Intercom App が担当
コンフィギュレーション用ウェブ・ユーザー・インターフェイス	✓
ブラウザのサポート	Firefox, Chrome, Safari
アドオンへの解放性	✓
柔軟なアップグレード	✓




このアプリはライセンス・ファイル (MNC_BASIC) を必要とします。
 インストールに関して詳しくは [§7.3 『ライセンスのインストール』](#) を参照してください。

7.2.1 MNCA の機能

下表は各 MNCA のバージョンで利用可能な機能を示します。

機能	MNCA 1	MNCA 2	MNCA 3	MNCA 4	New in 2.0 MNCA 5
マクロの作成	✓	✓	✓	✓	✓
音声のルーティング	✓	✓	✓	✓	✓
映像のルーティング	✓	✓	✓	✓	✓
GPIO のルーティング	✗	✓	✓	✓	✓
データのルーティング	✗	✓	✓	✓	✓
マルチチャンネル音声のルーティング	✗	✓	✓	✓	✓
信号の有無の監視	✗	✓	✓	✓	✓
キー・バンクの階層構造	✗	✗	✓	✓	✓
MN カウンターの制御と読み出し	✗	✗	✓	✓	✓
プレビュー出力付きのテイク・モード	✗	✗	✓	✓	✓
マルチビューワー設定の変更	✗	✗	✗	✓	✓
MediorNet スナップショットの発動	✗	✗	✗	✓	✓
New in 2.0 UHD 信号のサポート	✗	✗	✗	✗	✓


 SmartPanel は、対応するインストール済みライセンス・バージョンに含まれている機能だけをサポートします。

7.2.2 操作

以下の節では SmartPanel での MediorNet Control アプリの操作を説明します。

7.2.2.1 MNCA を起動する

New in 2.0 MediorNet Control アプリは 2 つのキーバンク **MNCA (Main)** と **MNCA (Shift)** を介してアクセスしますが、これらは別々に設定できます。

キー・バンクは、「キー・バンク」ファンクション・キー  を短く押すと表示されます。

右側のディスプレイでは、SmartPanel でライセンスが利用可能であれば、2 つのインターカム・キー・バンクの下に 2 つの MNCA キー・バンクが表示されます。キー・バンクは色付きの枠で表示され、アクティブなキー・バンクは強調表示されます。

ディスプレイ上の各名称を短くタッチすると切り替えができます。

希望するキー・バンクを選択することで、インターカムと MediorNet Control の機能をいつでも切り替えることが可能です。

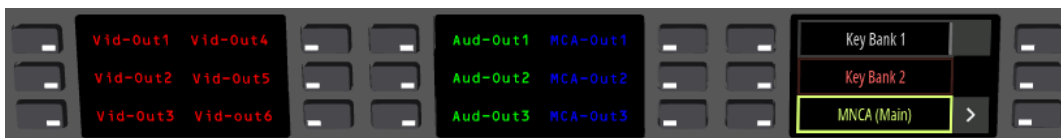


図 64 : MediorNet Control アプリ (メインのキー・バンクが稼働されている状態)

7.2.2.2 ルートを切り替える

以下の例では、ビデオ出力 [Vid-Out3] はビデオ入力 [VidIn 6] から信号を受けます。

ルートの切り替えは 2 段階で行われます：

1. 出力の選択.
2. 入力の選択.

利用可能なビデオ出力はメイン・ページに表示されます。

> 希望する出力を選択する (Vid-Out3 →キー 3).

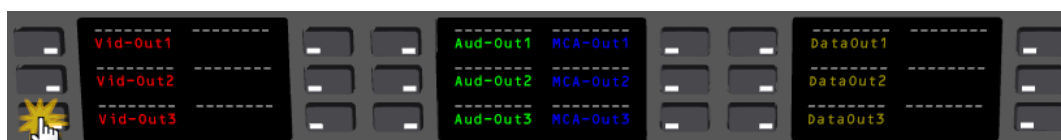


図 65：出力の選択

利用可能なビデオ入力が表示されます。

現在アクティブなソースは反転表示されます (VidIn 1)。

> 希望する入力を選択する (VidIn 6 →キー 6)。

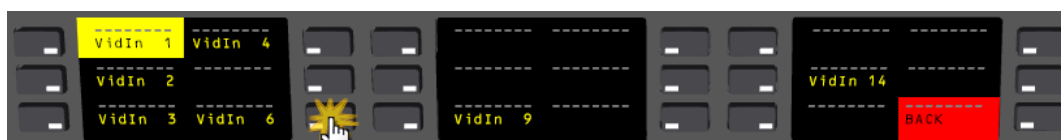


図 66：入力の選択

選択されたソースは、選択されたデスティネーションに切り替わります。

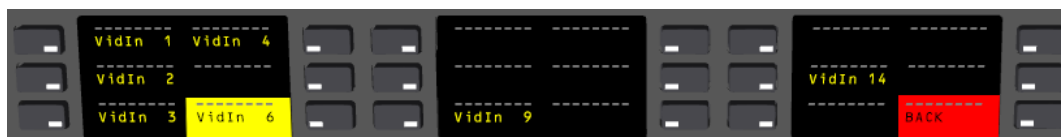



図 67：確立した接続

各 MediorNet ルートはそれぞれの新しい入力選択によって切り替わります。

別の出力を選択する場合は、右下の BACK キー (キー 18) を押してください。利用可能な出力のあるメイン・ページが表示され、新たな出力を選択することができます。

7.2.2.3 テイク機能



テイク機能を使用するには、ウェブ・インターフェイスの MNCA 設定 (S 6.4) 内で稼動する必要があります：

- [Take Button Enabled] スイッチ  を稼動します。
- [Submit] ボタンをクリックして SmartPanel 内のこの設定をアップデートします。

テイク機能が稼動されると、ルートの切り替えは 3 段階で行われます：

1. 出力の選択.
2. 入力を選択.
3. TAKE キーを押すことによる確定.

利用可能なビデオ出力はメイン・ページ上に表示されます。

> 希望する出力を選ぶ (Vid-Out5 → キー 5)。

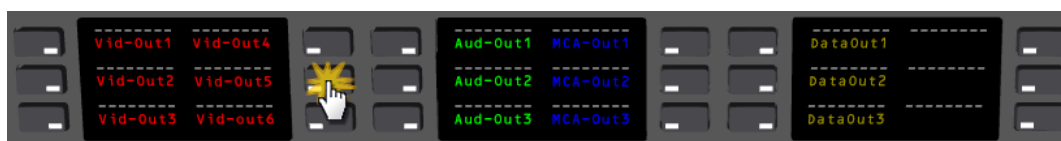


図 68 : 出力の選択

利用可能なビデオ入力が表示されます。

現在アクティブな入力は反転表示されます (VidIn 1)。

> 希望する入力を選ぶ (VidIn 3 → キー 3)。

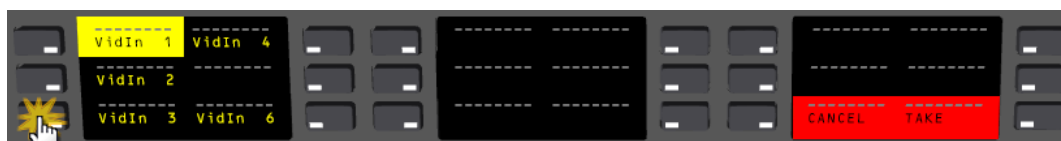


図 69 : 入力の選択

選択された入力は点滅していますがこの信号は出力に切り替えられてはいません。

この時点で、入力は他のキーを押すことで変更できます。

CANCEL キーを押すとメイン・ページに戻ります。

> TAKE キーを押すことで信号は切り替わる。



図 70 : Take キーを押す

ディスプレイはメイン・ページに戻ります。

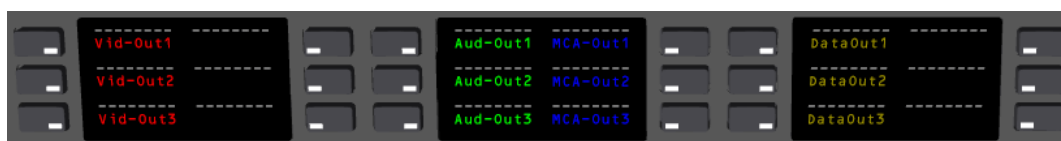




図 71 : MediorNet Control アプリ (メイン・ページ)

7.2.2.4 プレビュー機能

	<p>プレビュー機能は、ウェブ・インターフェイスの MNCA 設定内で有効にする必要があります：</p> <ul style="list-style-type: none"> • [xxx Preview Output] スイッチ  を稼動する。 プレビュー機能は各信号タイプについて個別に稼動できます。 • スイッチの隣にあるドロップダウン・リスト内でプレビュー出力を選択する。 • [Submit] ボタンをクリックすると、SmartPanel でこの設定が更新される。 <p>プレビュー機能は、単一の「出力→入力」接続にのみ使用でき、マクロには使用できません。 さらに、[Take Button Enabled] 機能を有効にする必要があります。</p>
---	--

プレビュー機能が有効な場合、ルートの切り替えは 3 段階で行われます：

1. 出力の選択.
2. 入力の選択.
3. [TAKE] キー押しによる確定.

利用可能なビデオ出力がメイン・ページに表示されます。

➤ 希望する出力を選択する (Vid-Out5 →キー 5).

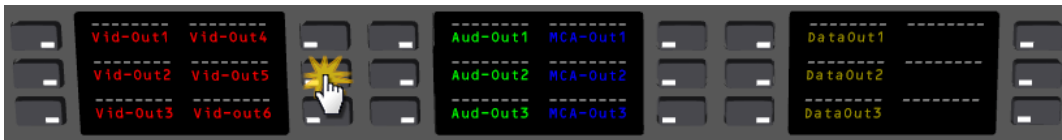


図 72：出力の選択

利用可能なビデオ入力が表示されます。

現在アクティブな入力は反転表示されます (VidIn 1).

➤ 希望する入力を選択する (VidIn 3 →キー 3).

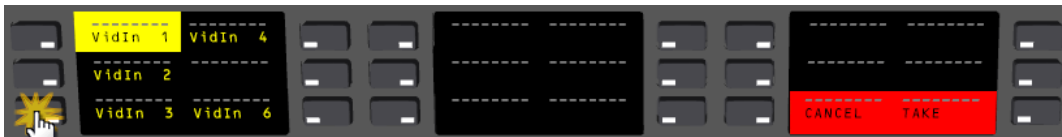


図 73：入力の選択

選択された入力が点滅し、信号がプレビュー出力に切り替わります。

このとき、他のキーを押せば入力を変更できます。

CANCEL キーを押すとメイン・ページに戻ります。

➤ TAKE キーを押すと、信号は選択された出力に切り替わります。



図 74：Take キーを押す

ディスプレイはメイン・ページに戻ります。

7.2.3 セットアップ

この節では、MediorNet Control アプリケーションが動作する SmartPanel で MediorNet システムを制御するための前提条件のセットアップについて説明します。このアプリを使用する前にいくつかの設定が必要です。

- ルーティングされるチャンネルは 3rd-Party-ID を持っている必要があります。
これはコンフィギュレーション・ソフトウェア MediorWorks 内の **3rd-Party-Interface-Configuration** (すぐ下の節) で行われます。
- SmartPanel とプライマリ (存在すればセカンダリも) サードパーティー・マスターとの接続が確立されている必要があります。これは MediorNet Control アプリの設定 (次ページの節) で行われます。

3rd-Party-Interface-Configuration

ネット (サードパーティー・マスター) 毎に 1 台の MediorNet フレームが MediorNet フレームと SmartPanel との間の通信を担当します。選択は MediorNet コンフィギュレーション・ソフトウェアの MediorWorks 内で行われます。[Management] → [3rd Party Interfaces] メニューを選び、ドロップダウン・ボックス内のプライマリおよびセカンダリ・マスター・フレームを定義してください。

SmartPanel と指定されたマスター・フレームとの間の IP 接続は同じネット内のフレーム (できればマスター・フレーム自身) の CONFIG ポートを介して確立される必要があります。

SmartPanel が接続を行えるようにするにはソースおよびデスティネーション・チャンネルには 1 ~ 65.535 の範囲の ID を割り当てる必要があります。


MediorNet フレームの IP アドレスは MediorWorks の [Management] → [Frame Addresses] メニュー内で観察できます。

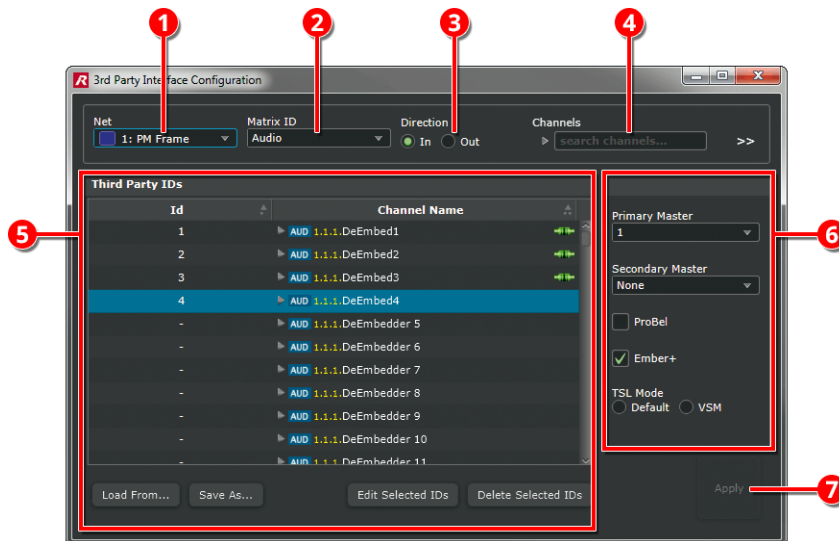



図 75: サードパーティー・インターフェイスのコンフィギュレーション

1	Net	ネットの選択。
2	Matrix ID	この割り当ては異なる信号タイプについて別々に行われる必要があります。 SmartPanel にとって有効な信号は Video と Audio です。
3	Direction	ソース (入力) とデスティネーション (出力) の ID 割り当て選択。
4	Channels	複雑なシステム内で必要なチャンネルを追跡するために、フィルターをリストに適用することができます。 基準に合ったチャンネルだけが表示されます。フィルターの選択肢はさらにあって、三角形のアイコンによって組み合わせることができます。
5	IDs	ID を割り当て、変更、削除するセクション / ボタン。
6	1st / 2nd Master	ネット内のプライマリ・マスターとセカンダリ・マスターの選択。 MediorNet Control アプリへの通信を動作させるには「Ember+」プロトコルを稼働してください。
7	Apply	すべての変更をネットに保存するボタン。


「3rd-Party-ID」が割り当てられてあるチャンネルはすべて MediorNet Control アプリのウェブ・インターフェイス内で利用できます。

MediorNet Control アプリのコンフィギュレーション

SmartPanel 経由で MediorNet のルーティングを切り替えられるようにするには、SmartPanel と MediorNet フレームとの間に接続が確立されている必要があります。



SmartPanel の ETH1 ポートと MediorNet の設定ポートは同じネットワーク内にある必要があります。

➤ 同じネットワークに接続された PC のブラウザに各 SmartPanel の IP アドレスを入力し、SmartPanel のウェブ・インターフェイスに入る。

➤ 以下のステップを実行する：

1. [MNC Main] ドロワーを選択する。
2. [Primary/Secondary Ember Master (IP):] 欄内にプライマリおよびセカンダリ・マスターの IP アドレスを入力する。
3. 最上部の [Submit] ボタンをクリックする。

SmartPanel と両方の MediorNet デバイス間の現在の接続状態は、右側の IP アドレスの横に表示されます。[Online] と表示されている場合は接続が確立されており、MediorNet Control アプリの設定を行うことができます。

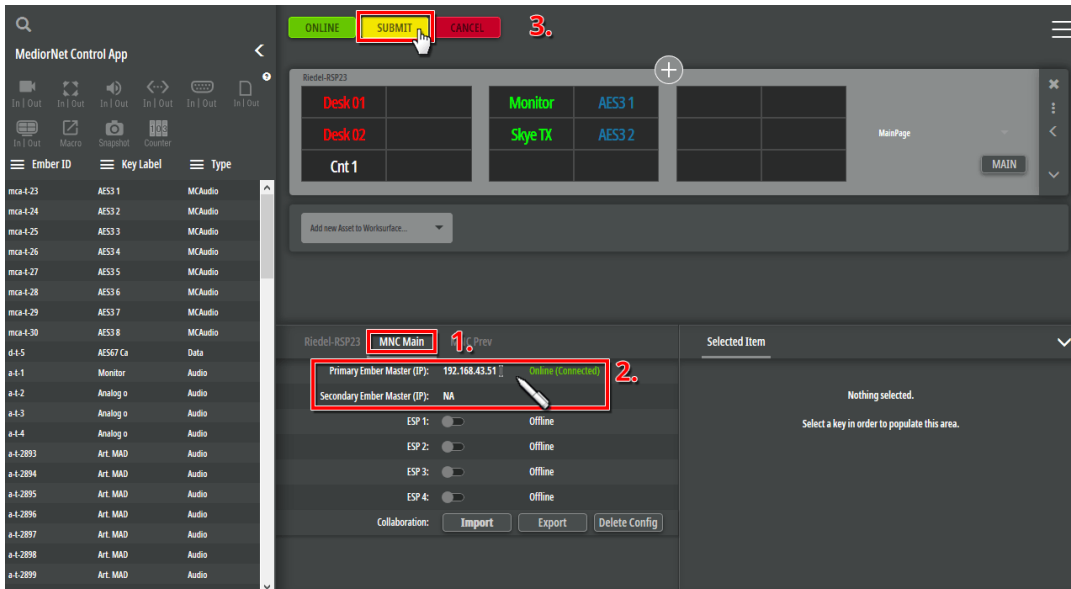



図 76 : MediorNet Control アプリのコンフィギュレーション

7.2.4 キーの定義

キーのコンフィギュレーションは複数のキー・バンク上で行われます。



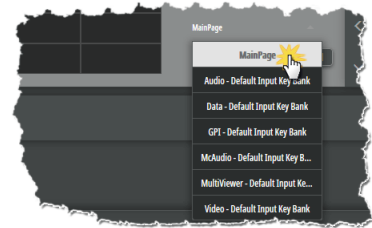
MediorNet Control アプリ内のキー・バンクを SmartPanel 内で使用されるキー・バンクと混同しないでください。

メイン・ページでは信号タイプとは独立して出力の割り当てだけが可能です。

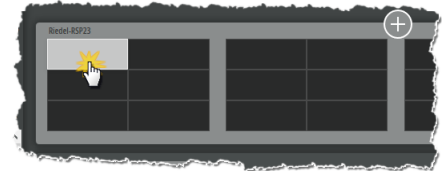
入力は各信号タイプの別々のキー・バンクに割り当てられます。

キーの定義

➤ SmartPanel のドロップダウン・リスト内で **[MainPage]** を選択する。



➤ 設定するキーを選択する。



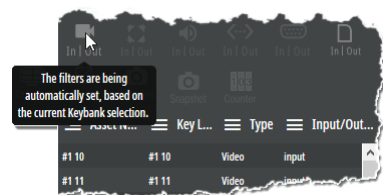
まず、信号タイプとは独立して出力が割り当てられます。

➤ 信号を見つける便利な方法としては、希望する信号タイプ (Video outputs) をクリックすることによってそれにフィルターをかけることがある。

稼動されたフィルターが強調表示されます。

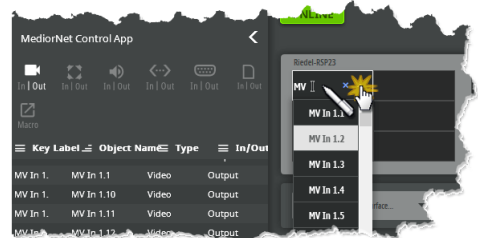


選択されたキー・バンクに応じて、Asset ドロワーをフィルタリングするオートフィルタが適用されます。例えば、**[Video Input Key Bank]** が選択されている場合、そのキー・バンクに割り当てることのできるオブジェクトだけが表示されます：Video および Key Bank 入力です。

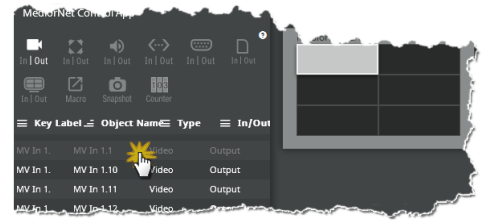


信号をキーに割り当てるには複数の方法があります：

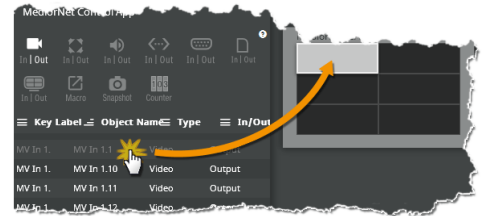
- 選択済みのキーを再度クリックする：
 - テキスト欄 / ドロップダウン・リストが開きます。
 - 利用できる全信号を直接選択できます。
 - テキストを入力する際、リストは可能な信号について自動フィルタリングされます。



- Asset ドロワー内で信号をダブルクリックする。
選択されたキーにその信号が割り当てられ、次のキーが選択されます。

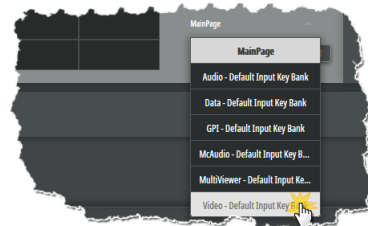


- Asset ドロワーから信号をキーにドラッグ&ドロップする。



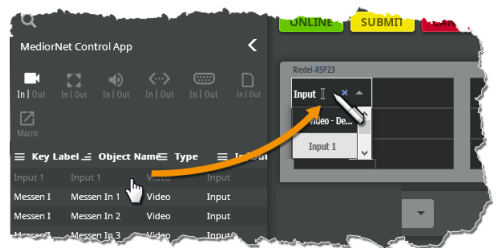
出力をすべて割り当てたら、入力に進みます：

- SmartPanel のドロップダウン・リスト内で信号のタイプの入力キー・バンクを選択する (Video - Default Input Key Bank)。

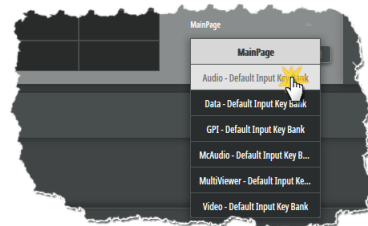


このキー・バンクには、同じ信号タイプの入力だけを割り当てることができます。したがって、Asset ドロワーには対応するキー・バンクに割り当て可能なオブジェクトのみが表示されます。他の種類の信号を割り当てたい場合は、あらかじめ割り当てたい信号のキー・バンクを選択しておく必要があります。

入力は同じ方法でキーに割り当てることができます (別のクリック, ダブルクリック, ドラッグ&ドロップ)。

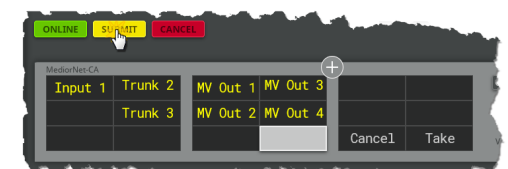


他の種類の信号の入力も同様に、それぞれの入力キー・バンク (Audio, Data, GPI, McAudio, Video, Multiviewer) を選択して割り当ててください。



- [Submit] ボタンをクリックして、コンフィギュレーションを SmartPanel にアップロードする。

これで MediorNet の入出力を SmartPanel でレーティングできるようになりました ([§ 7.2.2.2 『ルートを切り替える』](#)を参照してください)。



7.2.5 キーの色

Asset ドロワー内の全信号 / オブジェクトの色は個別に変更できます (§7.2.6 『キーの名前付け』参照) .

カスタム・カラーを選択しない場合 (), 個々のデフォルトの色が表示されます.

各信号 / オブジェクトは下表に示す個別のデフォルトの色を持っています.

信号タイプ / 対象		色
映像	入力	イエロー
	出力	レッド
マルチチャンネル音声	入力	シアン
	出力	
音声	入力	ブルー
	出力	グリーン
データ	入力	ブラウン
	出力	ダークイエロー

信号タイプ / 対象		色
GPI	入力	パープル
	出力	オレンジ
キー・バンク		ホワイト
マルチビューワー		
マクロ		ピンク
スナップショット		ダークシアン
カウンター		ホワイト

7.2.6 キーの名前付け

キーには MediorWorks 内で定義された名前のラベルが付きます。

Asset ドロワー内の全信号 / オブジェクトの名前は以下のようにして個別に変更することができます：

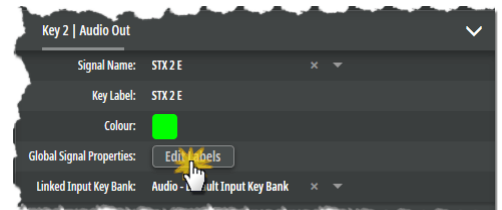
➤ ワークサーフェス上で、変更したいキーをクリックする。




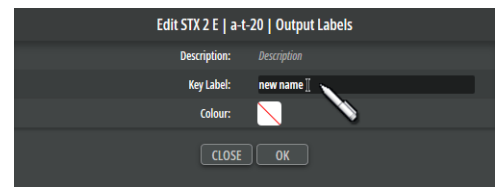
➤ 右下にある上向き矢印 (▲) をクリックして「選択項目」区画を開く。



➤ [Edit Labels] ボタンをクリックする。

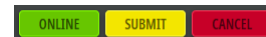


- **Key Label** テキスト欄内に新しい名前を入力する。
名前は 8 文字以下になるように注意してください。
この欄を空のままにしておくと、MediorWork の名前に戻ります。
- 必要に応じて **Description** テキスト欄に解説文を入力する。
- その下でカラーを選択できる。
- 入力を取り消すにはその都度  アイコンをクリックする。
- [OK] をクリックして全変更を適用するか、[CLOSE] をクリックして廃棄する。



➤ 変更した名前を SmartPanel に適用するには [SUBMIT] ボタンをクリックする。

➤ 変更をすべて廃棄するには [CANCEL] ボタンをクリックする。



各キーには新しい名前が適用されます。

ユーザー定義の名前は MediorNet Control コンフィギュレーションの一部です。エクスポート機能 (§7.2.10) を使って保存されます。インポート機能 (§7.2.10) を使うと名前を他のパネルに転送できます。

MediorWorks 内で変更された名前は SmartPanel 内の現在の名前を上書きします。



7.2.7 マクロ

マクロは1つのキーを押すことで100個までのコマンドを実行できます。

マクロを作成する

➤ ワークサーフェス内最上部で+記号をクリックして [Add] → [New Macro] を選ぶ。

ダイアログが開きます。



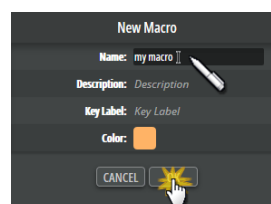
➤ 名前を入力する。

➤ 解説文を入力する。

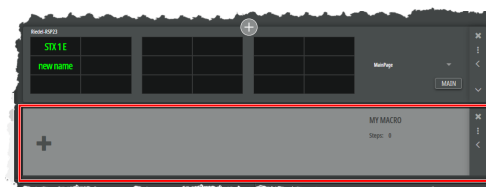
➤ キー・ラベルとして8文字まで入力する。

➤ カラーを選択する。

[OK] ボタンをクリックしてください。



➤ 新規 (空の) マクロが作られてワークサーフェス上に表示される。



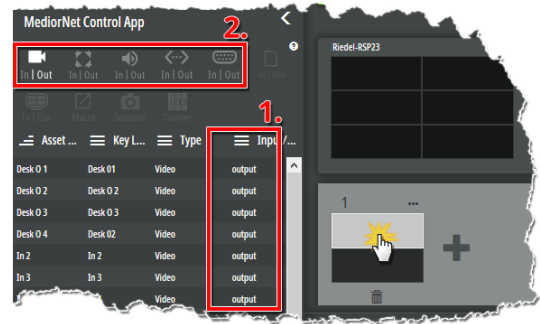
マクロを編集する

➤ 新しいコマンドを作成するには、マクロの大きな+ボタンをクリックする。



➤ 上側の [Output] 欄をクリックする.

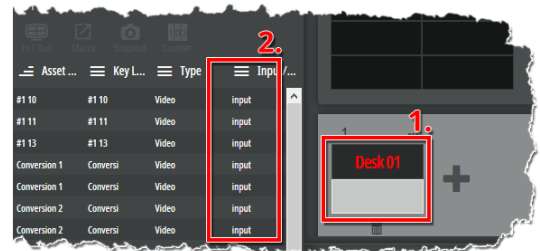
1. [Output] 欄を選択すると, Asset ドロワーは自動的に出力でフィルタリングされます.
2. 信号の種類をクリックするだけで, 追加のフィルター (信号の種類によるフィルター) を適用できます.



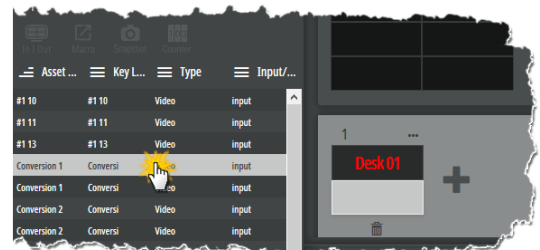
➤ Asset ドロワー内で, マクロに追加する出力をダブルクリックする.



1. 出力は以前の選択内に表示され, 選択は下の [Input] 欄にジャンプします.
2. Asset ドロワーが入力によって自動的にフィルタリングされるようになりました.



➤ Asset ドロワー内で, マクロに追加する入力をダブルクリックする.

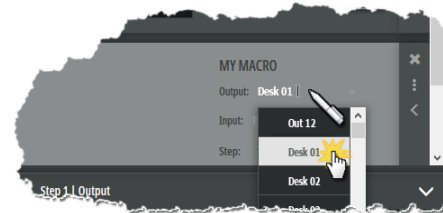
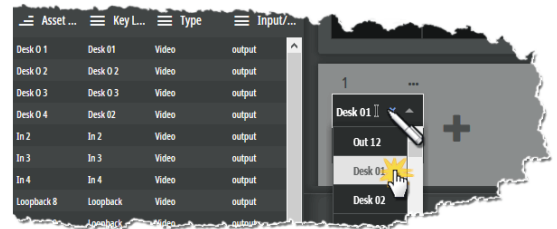



1. 入力は以前の選択内に表示され, 別のコマンドが挿入されました. 選択は次の上の [Output] 欄にジャンプします.
2. Asset ドロワーは, 再び出力で自動的にフィルタリングされるようになりました.



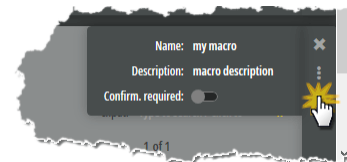
同じ方法で、さらにコマンドを挿入することができます。また、信号ペアを追加する別の方法もあります：

1. 希望する入出力を、空いている入出力マクロ欄にドラッグ&ドロップする。
2. マクロ欄をクリックし、開いたリスト選択から希望する信号を選ぶ。テキスト欄に希望する信号名を入力することもできます。利用可能な信号は、入力されると自動的にフィルタリングされます。
3. マクロの右側にあるリスト選択をクリックし、希望する信号を選ぶ。ここのテキスト欄には、希望する信号名を入力できます。



マクロの右側の矢印（) をクリックすると以下のことを行うダイアログが開きます：


- マクロの名前または解説文の編集。
- マクロが実行される前の SmartPanel 上での確認ダイアログの稼動。



コマンドの順番は、コマンドの上にある 3 点アイコン（) をドラッグ&ドロップして変更可能です。

コマンドは、ゴミ箱ボタン（) をクリックして削除できます。

希望するコマンドをすべて定義したら、[Submit] ボタンをクリックしてください。[Cancel] ボタンは定義を廃棄します。

利用可能なマクロは、MediorNet Control アプリの Asset ドロワーの左側に表示されます。マクロ・フィルター（) を稼働させると、Asset ドロワー内のマクロ以外のエントリが非表示になります。Asset ドロワー内のマクロをダブルクリックすると、そのマクロはワークスペース内で選択されているキーに追加されます。

キー上のマクロをダブルクリックすると、そのマクロは編集できるように開かれます。

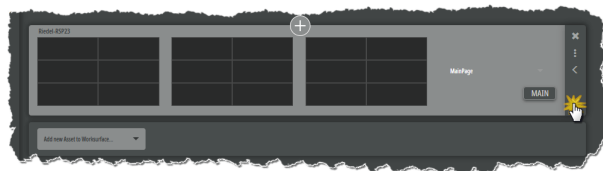
7.2.8 GPI

SmartPanel の GPI 入力を通じて、マクロを実行したり、MediorNet スナップショットにトリガーをかけることができます。

GPI 区画を開く

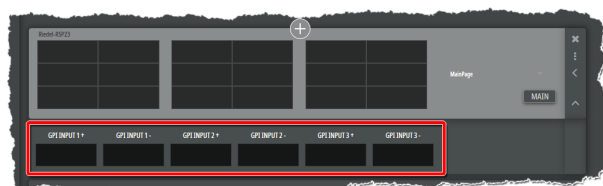
GPI の設定は折り畳み式の区画内に隠されています。

➤ SmartPanel の右側の下向き矢印 (▼) をクリックして GPI 区画を開く。



これで GPI 入力 が SmartPanel の下に表示されるようになります。

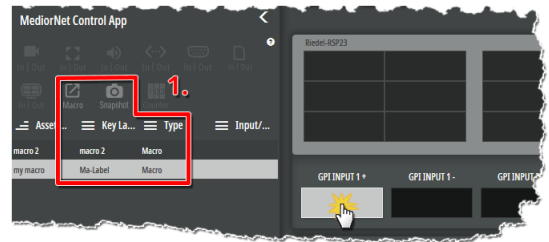
トリガーの動作 (+/-) は GPI 入力ごとに個別に設定できます。



GPI 入力を設定する

➤ 設定する GPI 入力をクリックする。

1. GPI 入力を選択すると、Asset ドロワーはマクロとスナップショットで自動的にフィルタリングされます。

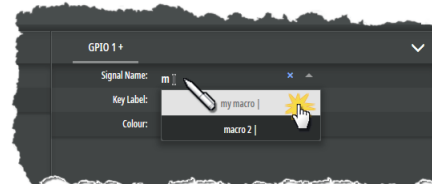


➤ インベントリのリストで、マクロに割り当てるコマンドをダブルクリックする。

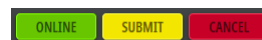


また、コマンドの割り当てには別の選択肢もあります：

1. 希望するコマンドを GPI 入力にドラッグ&ドロップする。
2. GPI 入力をクリックし、開いたドロップダウン・リストから希望するコマンドを選択する。
希望するコマンド名をテキスト欄に入力することもできます。入力されたコマンドは自動的にフィルタリングされます。
3. 右側の「選択項目」区画で、リスト選択項目の [Signal Name] をクリックする。
また、このテキスト欄には、希望するコマンド名を入力することができます。



➤ 最後に [Submit] ボタンをクリックすると、SmartPanel 上の設定が更新されます。



GPI を編集する

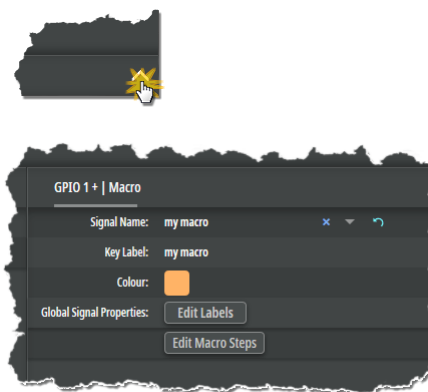
➤ 右下の上向き矢印 (▲) をクリックして [選択項目] 区画を開く。

割り当てられてあるコマンドは、[Signal Name] の隣にある ✖ ボタンをクリックすることで削除できます。

[Edit Labels] ボタンで、名前、説明文、キー名、カラーを変更することができます。

これらの値は、[Submit] ボタンをクリックしなくても、SmartPanel で直接更新されます。

[Edit Macro Steps] ボタンをクリックすると、割り当てられたマクロを表示し、編集することができます。




7.2.9 キー・バンク

SmartPanel のキーが足りない場合、MNCA のキー・バンクを追加作成することでキーの数を増やすことができます。キー・バンクは入力と出力に別々に作成されます。入力キー・バンクを追加する場合は、信号の種類を定義する必要があります。

キー・バンクのキーは、1つの入出力だけでなく、別のキー・バンクも参照することができます。

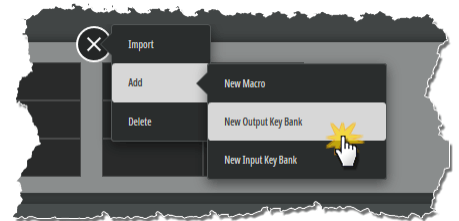
そうすることで、個別のページ構造を作成できます。



MediorNet Control アプリ内のキー・バンクと、SmartPanel で使用されるキー・バンクとを混同しないようご注意ください。

キー・バンクを作成する

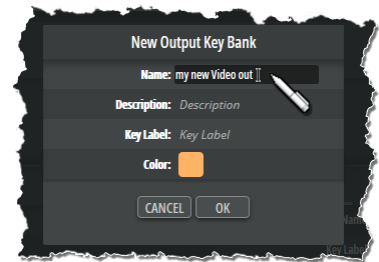
ワークサーフェスの上部にある+記号をクリックし、[Add] を、そして [New Output Key Bank] または [New Input Key Bank] を選択する。



出力キー・バンクを作成する場合：

- > 名前を入力する。
- > 説明文を入力する。
- > キー・ラベルとして表示される最大 8 文字を入力する。
- > カラーを選択する。

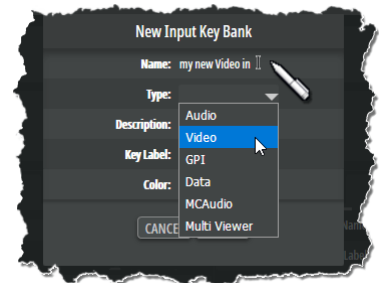
[OK] ボタンをクリックする。



入力キー・バンクを作成する場合：

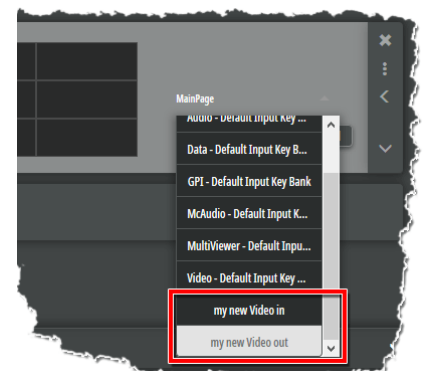
- > 名前を入力する。
- > 新しいキー・バンクで使われる信号タイプを選択する。
- > 説明文を入力する。
- > キー・ラベルとして表示される最大 8 文字を入力する。
- > カラーを選択する。

[OK] ボタンをクリックする。



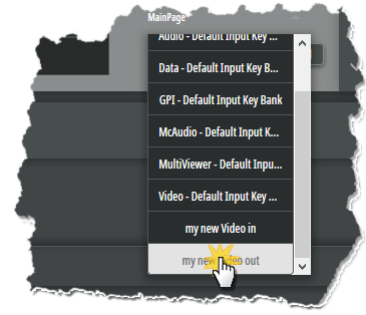
新しいキー・バンクが作成され、Asset ドロワーと SmartPanel のキー・バンクのドロップダウン選択に表示されます。

Asset Name	Key Label	Type	Input/Output
Audio - Default Input Key...	Audio -	Audio Key Bank	input
Data - Default Input Key ...	Data - D	Data Key Bank	input
GPI - Default Input Key B...	GPI - De	GPI Key Bank	input
MainPage	MainPage	Mixed Key Bank	output
McAudio - Default Input ...	McAudio	McAudio Key Bank	input
MultiViewer - Default Inp...	MultiVie	Multi Viewer Key ...	input
my new Video in	my new V	Video Key Bank	input
my new Video out	my new V	Mixed Key Bank	output
Video - Default Input Key ...	Video -	Video Key Bank	input



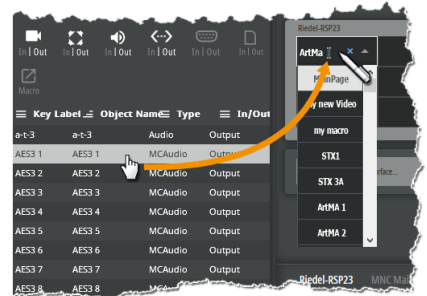
出力キー・バンクを設定する

- SmartPanelのドロップダウン・リストから、新しく追加された [Output Key Bank] を選択する.

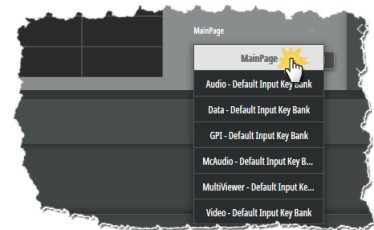


- 信号の種類に関係なく、希望する出力をキーに割り当てる (別のクリック、ダブルクリック、ドラッグ&ドロップによって).

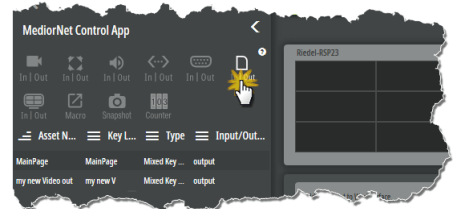
また、個別の出力構造を作るために、キーに「Output Key Bank」を割り当てることもできます。



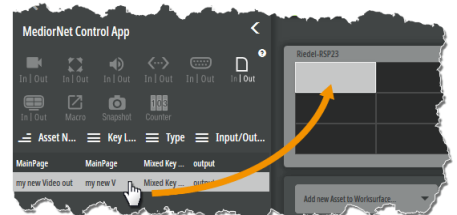
- SmartPanelのドロップダウン・リストから [MainPage] を選択する.



- MNCAのAssetドロワーを出力キー・バンク用にフィルタリングする.

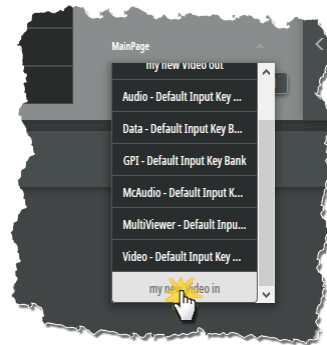


- 新たに作成した出力キー・バンクをキーに割り当てる (別のクリック、ダブルクリック、ドラッグ&ドロップによって).



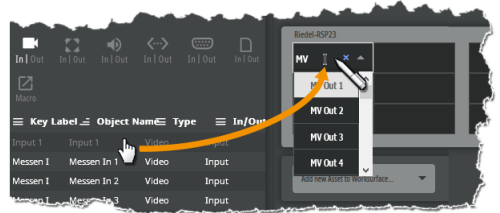
入力キー・バンクを設定する

➤ SmartPanelのドロップダウン・リストで、新しく追加された [Input Key Bank] を選択する。

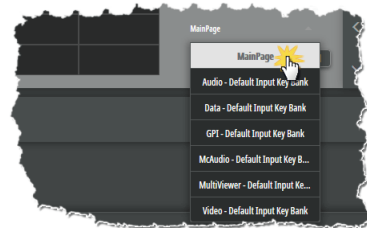


➤ キー・バンクの信号の種類に応じて、希望する入力をキーに割り当てる (別のクリック、ダブルクリック、ドラッグ&ドロップによって)。

また、個別の入力構成を作るために、同じ信号タイプの [Input Key Bank] をキーに割り当てることもできます。



➤ SmartPanelのドロップダウン・リストから、[MainPage] または [Output Key Bank] を選択する。

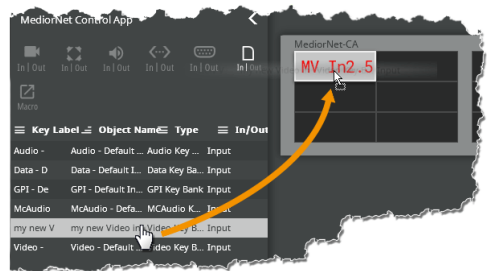


➤ MNCAのAsset ドロワーを入力キー・バンクでフィルタリングする。



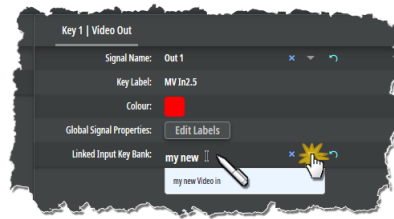
➤ 入力キー・バンクを、すでに出力が割り当てられている (別のクリック、ダブルクリック、ドラッグ&ドロップによって) キーにドラッグ&ドロップで割り当てる。対応する信号タイプのキー・バンクのみ割り当て可能です。

アプリの操作時 (SmartPanel にて)、標準のキー・バンクの代わりに、ユーザー定義の [Input Key Bank] が提供されます。



[Input Key Bank] は「選択項目」区画内でも定義できます：

- ワークサーフェス上で [Input Key Bank] を変更したい出力をクリックする。
- [Input Key Bank] を割り当てたい [Linked Input Key Bank] 欄を選択する。



7.2.10 アプリのコンフィギュレーションをエクスポートする、インポートする

SmartPanel の現在の MN-Control のコンフィギュレーションは、オペレーターが作業しているコンピューターとの間でエクスポート/インポートできます。

この機能は [Export] または [Import] ボタンをクリックすることで [MNCA] タブ内に見つかります。

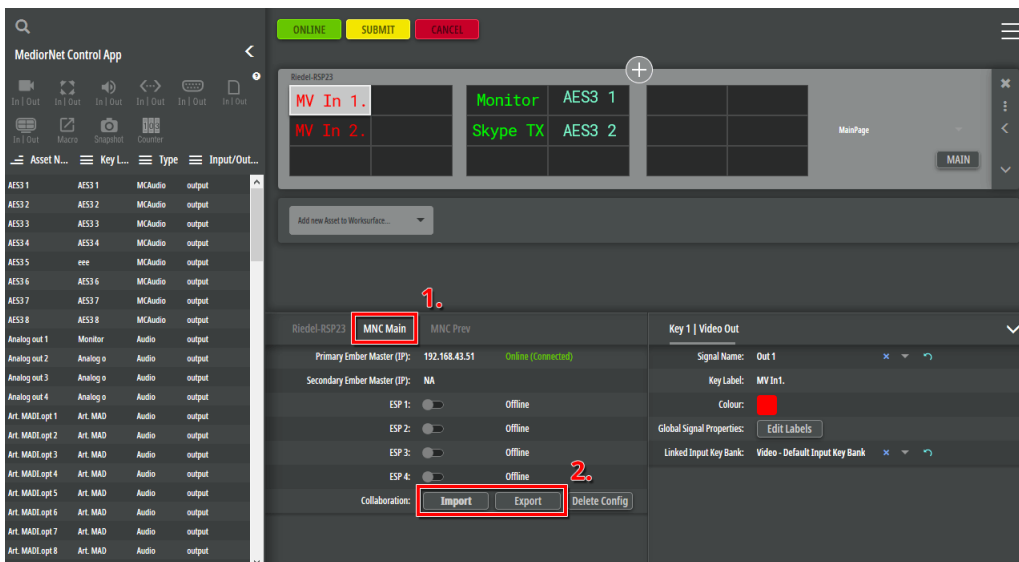


図 77 : MNCA - Export のコンフィギュレーション

[Export] をクリックするとファイル名を入力するダイアログが開きます。プリセットとして [MNC] テキストの後に現在の日付が入力されています。

[Ok] をクリックするとコンフィギュレーション・ファイルがブラウザのデフォルト・ダウンロード・ディレクトリに保存されます。ファイルの拡張子は **.mcf** です。

このコンフィギュレーション・ファイルはバックアップやコンフィギュレーションを他の SmartPanel に配るのに使用できます。

コンフィギュレーション・ファイルには以下の情報が保存されます：

- パネルの名前
- MediorNet マスターの IP アドレス
- キーのコンフィギュレーション
- キーの名前

[Import] をクリックすると希望するコンフィギュレーション・ファイル (**.mcf**) を選択するダイアログが開きます。

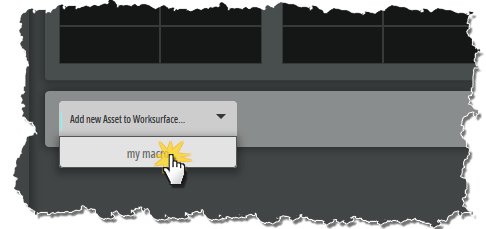
SmartPanel 内の現在のコンフィギュレーションが上書きされることを確認するためのダイアログが開きます。

7.2.11 マクロをインポートする, エクスポートする

マクロはオペレーターが作業しているコンピューターとの間でエクスポート/インポートすることができます。エクスポートされたファイルはバックアップやマクロを他の SmartPanel に配るのに使用できます。

マクロをインポートするには、最初にワークサーフェス内でマクロを選択する必要があります。
SmartPanel 上にマクロが存在しない場合、最初に新しく 1 つ作成する必要があります。

- > ワークサーフェスのドロップダウン選択内で、エクスポートしたいマクロを選ぶ。
- > インポートするには任意のマクロを選択する。



- > 右下の上向き矢印 (▲) をクリックして「選択項目」区画を開く。



Export または Import ボタンをクリックすることで各機能は [Macro] タブ内に表示されます。

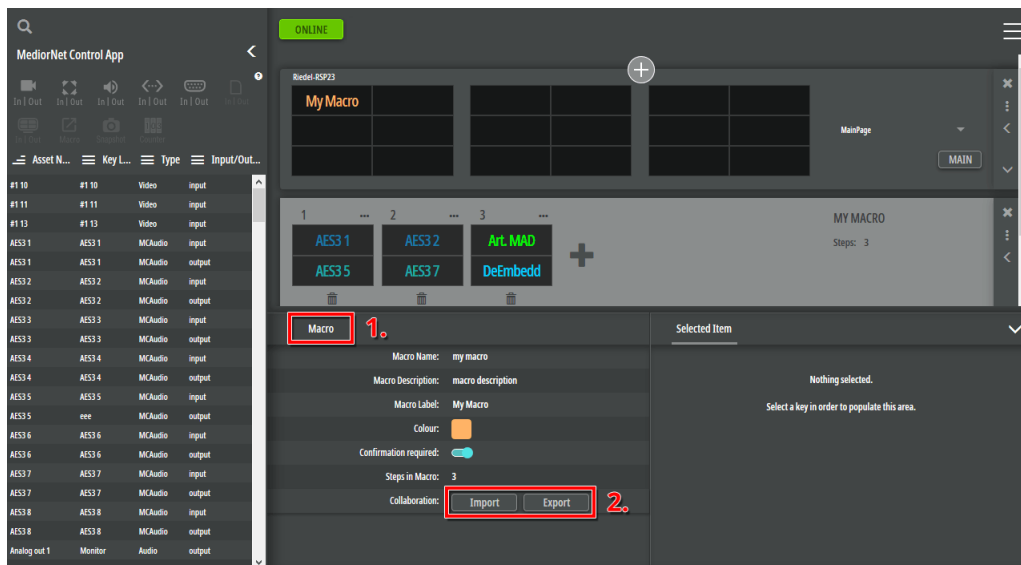


図 78 : MNCA – Export Macro


[Export] をクリックするとファイル名を入力するダイアログが開きます。プリセットとして、マクロの名前と現在の日付が入力されています。[OK] をクリックすると、ブラウザのデフォルトのダウンロード・ディレクトリにマクロが保存されます。ファイルの拡張子は **.mcf** です。

[Import] をクリックすると希望するマクロ・ファイル (**.mcf**) を選択するダイアログが開きます。それに続くダイアログで、マクロの情報 (名前, 説明, キー・ラベル, 色) を変更することができます。

[OK] をクリックすると、マクロが作成され、Asset ドロワーに表示されるとともにワークサーフェスのドロップダウン選択にも表示されます。

7.2.12 SmartPanel へのアップロード

ウェブ・インターフェイス内の変更は接続されている SmartPanel に自動的に転送されません。

変更を適用するには [Submit] ボタン () をクリックしてください。

ウェブ・インターフェイス内の現在のコンフィギュレーションは確認なしに SmartPanel に転送されます。

[Submit] ボタンが使用可能になっていない場合は、ウェブ・インターフェイス内に変更がありません。

7.3 ライセンスのインストール

2300 シリーズ SmartPanel はパネル上で動作するアプリをアクティベートするためのライセンス・ファイルが必要とします。パネルが Riedel によるライセンスを受けていない場合、ライセンス・ファイルは Riedel のカスタマー・サービスによって提供されます。ライセンス・ファイルの名前は、そのライセンスがインストールされるパネルのシリアルナンバーと同一である必要があります。SmartPanel のシリアルナンバーは 13 桁の数字です (例: **1234512345678**)。ライセンス・ファイルは「bin」ファイルです (例: **1234512345678.bin**)。

各ライセンス・ファイルはシリアルナンバーが合致するパネルによってのみ読み取ることができます。

ライセンスをインストールする

- > USB ドライブを FAT32 または NTFS ファイル・フォーマットでフォーマットする。
- > ライセンス・ファイルを USB ドライブにコピーする (任意のフォルダ内)。このフォルダーは複数のライセンス・ファイルを入れることができます。

任意:

- > 設定メニューを開く。
- > メニュー項目 [Licensing] → [Add License ...] まで移動する。



図 79 : Add License

- > USB ドライブをスピーカーの隣の USB コネクターに挿入する。

USB メモリーは互換性を有するファイルがあるかどうかスキャンされます。

SmartPanel はシリアルナンバーに基づいて対応するライセンス (複数可) を見つけ出します。



図 80 : USB メモリーを接続する

互換性を有するライセンス・ファイルが複数ある場合は、SmartPanel にどのライセンスをインストールするか選択できます。

- > 右記のキーを押してライセンスのインストールを確定する。



図 81 : ライセンスをインストールする

ライセンス・ファイルがアクティベートされ、ディスプレイが現在有効なライセンスを表示します。

- > USB メモリーを SmartPanel から抜き取る。

ライセンスのインストールはこれで完了しました。



図 82 : 現在のライセンス

ライセンスの状態を調べる

- 設定メニューを開く.
- [Licensing] メニュー項目まで移動する.

ディスプレイはライセンスの状態と利用可能な全アプリを表示します.



図 83 : ライセンスの状態を調べる

アクティベーションの問題

ライセンスのアクティベーションに問題があった (ライセンスが拒否された) 場合は以下の手順を行ってください :

- エラー・コードをメモする.



図 84 : 拒否されたライセンス

- 設定メニューを開く.
- メニュー項目 [Service] → [Device-Info] まで移動する.
- ディスプレイに表示された情報をメモする.
- 上記の情報を代理店に伝える.



図 85 : デバイスの情報

8 ファームウェアのアップデート

RSP-2318 および DSP-2312 SmartPanel のファームウェアは、USB メモリーを使って、ウェブ・インターフェイスを介して、あるいは Riedel AVB-Manager を用いてアップデートすることができます。ESP-2324 拡張 SmartPanel のファームウェアは、接続されているマスター SmartPanel のバージョンに自動的にアップデートされます。

8.1 USB ドライブを介するファームウェア・アップデート

USB メモリーを使ったファームウェアのインストールは手動または自動で行うことができます。


手動でのインストール手順は以下の通りです：

- > USB ドライブを FAT32 または NTFS ファイル形式でフォーマットする。
- > 希望する **23xx** ファームウェア・ファイルを USB ドライブ（任意のフォルダ内）にコピーする。
- > USB ドライブをスピーカーの隣にある USB コネクタに挿入する。
USB ドライブは互換性を有するファイルがあるかどうかスキャンされます。
- > 互換性を有するファイルが複数ある場合は、SmartPanel 上でどのファームウェアを用いるかを選択できる。

ファームウェア・ファイルを特別なフォルダ内に保存すると自動インストールが可能になります：

- > `\\Riedel\firmware\unattended` というフォルダを作成する。
- > 希望する **23xx** ファームウェア・ファイルを上記のフォルダ内にコピーする。
- > このフォルダ内にはファームウェア・ファイルは 1 個だけ保存されるように注意すること。
- > USB ドライブをスピーカーの隣にある USB コネクタに挿入する。
アップデート処理は自動的に開始されます。

あるいはアップデートは設定メニューの [Service] → [Firmware Update] から開始できます。

	アップロード処理が完了するまでは、パネルの電源を切ったり USB ドライブを取り外したりしないでください。
---	---

ファームウェアが SmartPanel にアップロードされます。

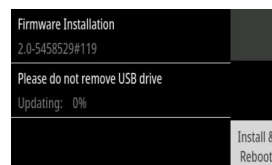


図 86：ファームウェアのアップロード

ファームウェアがロードされるとアップデート処理が実行されます。この段階で USB ドライブを SmartPanel パネルから抜き取っても構いません。

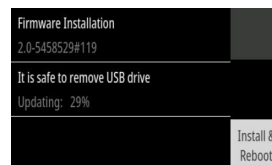


図 87：ファームウェアのアップデート

ファームウェアのアップデートが完了すると 5 秒間のカウントダウンが表示され、その後 SmartPanel は自動的に再起動します。

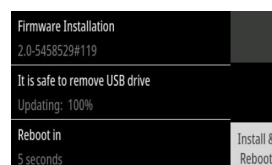




図 88：再起動

8.2 ウェブ・インターフェイスを介するファームウェア・アップデート

➤ アップデートする SmartPanel の AES67 インターフェイス（イーサネット・ポート）の IP アドレスを決定する。

	SmartPanel の IP アドレスは設定メニューの [Network] → [Media] → [IP Address] に表示されます。
	アップデート処理中は SmartPanel を主電源から抜かないでください。

Media Port: ETH1	>
IP Address: 192.168.41.159	Media
Subnet Mask: 255.255.255.0	Home

図 89 : SmartPanel の IP アドレス

➤ SmartPanel と同一のネットワーク上にある PC のウェブ・ブラウザに IP アドレス (例: **192.168.41.159**) を入力して、SmartPanel のウェブ・インターフェイスを開く。

この例ではネットワーク上に SmartPanel は 1 台しかありません。

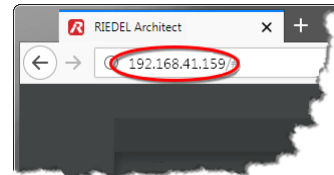


図 90 : SmartPanel のウェブ・インターフェイス

ウェブ・インターフェイスが開きます。

➤ SmartPanel の右側でメイン・メニュー (≡) を開き、**[Firmware Update]** を選択する。

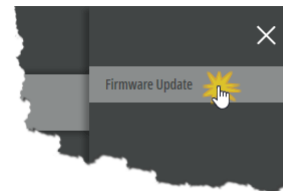


図 91 : Firmware Update

Firmware Manager が開きます。

- **[SELECT FW]** ボタンをクリックする。
- ファームウェア・ファイルのある場所まで移動し、**[Open]** ボタンをクリックすることで希望するファイルを選択する。

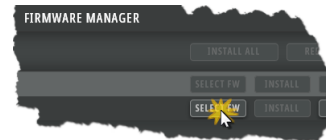


図 92 : ファームウェアを選択する

➤ **[INSTALL]** ボタンをクリックする。



図 93 : INSTALL

選択されたファームウェアが SmartPanel に転送されます。アップデートの進行状況はバーグラフが表示します。

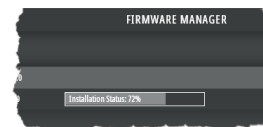


図 94 : インストール

アップデート処理を完了させるには SmartPanel を再起動する必要があります。

➤ [Auto Reboot] 機能を停止している場合は [Reboot] ボタンをクリックする。

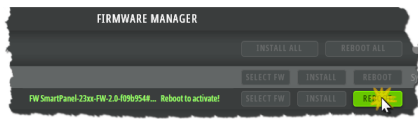


図 95 : Reboot

SmartPanel は再起動します。この再起動中は接続は途切れます。

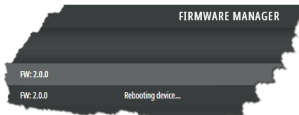


図 96 : デバイスを再起動する

再起動後に接続が再び確立すると、新しいファームウェア・バージョンが有効になります。

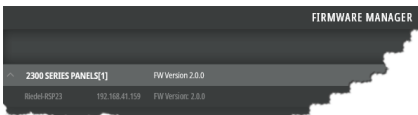



図 97 : 新しいファームウェア

アップデートが実行されている間、SmartPanel のディスプレイには以下のメッセージが表示されます：



図 98 : ファームウェアのアップデート中

	<p>ファームウェアのアップデートが動作しています。アップデートの動作中はパネルは反応しなくなる可能性があります。アップデート中はパネルの電源を切ったり、パネルを再起動しないでください。</p>
---	---

8.3 AVB-Manager を介するファームウェア・アップデート

- アップデートする SmartPanel の電源を入れる.
- SmartPanel のトランスポート・モードを AVB に設定する.
- PC を SmartPanel の ETH1 インターフェイスに接続する.



できればこれは AVB 対応のスイッチを使って行ってください。複数のパネルを同時にアップデートできるからです。RSP-2318 がファームウェア・バージョン 1.00 で動作している場合は AVB スイッチが必要です。

- AVB-Manager を開き、RSP-2318 が接続しているネットワーク・インターフェイスを選択する.

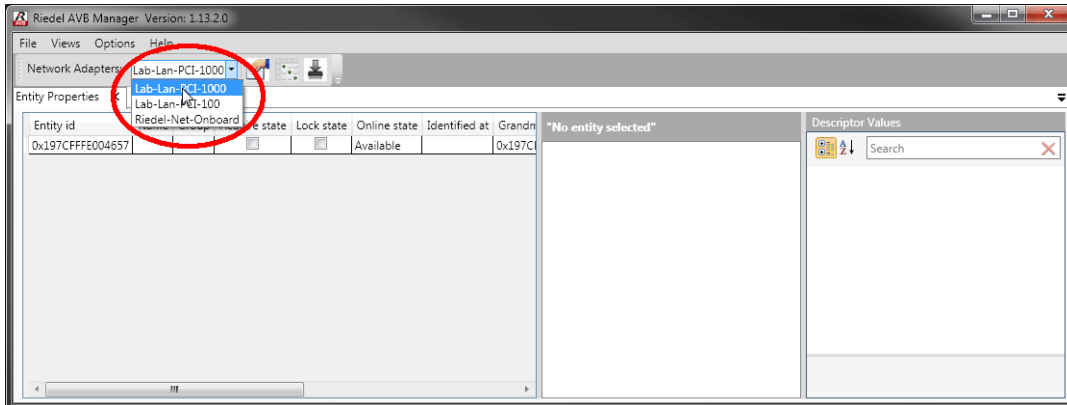


図 99 : ネットワーク・インターフェイスを選択する (AVB-Manager)

- ファームウェア・アップデートのアイコンをクリックする.

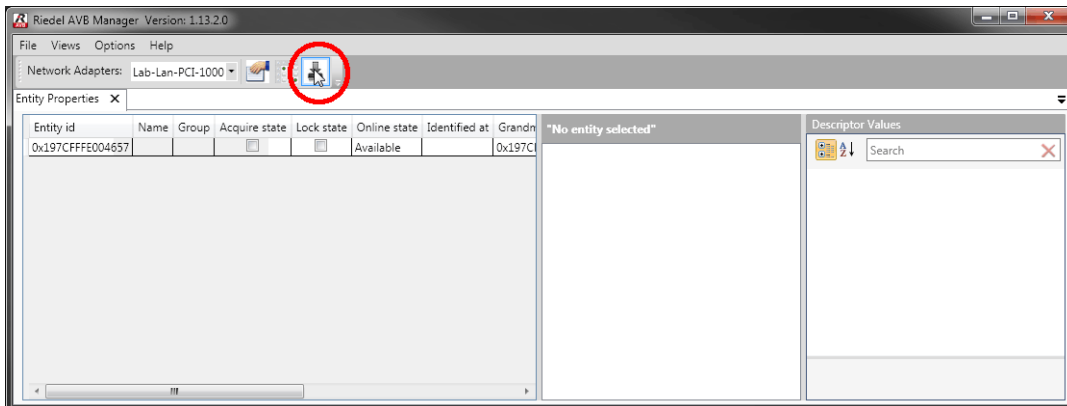


図 100 : Firmware Update アイコンをクリックする (AVB-Manager)

> [Load Firmware file] ボタンをクリックし、希望する RSP-2318 ファームウェア・ファイル即ち **SmartPanelFW_release_1_10_36.xfw** を選ぶ。

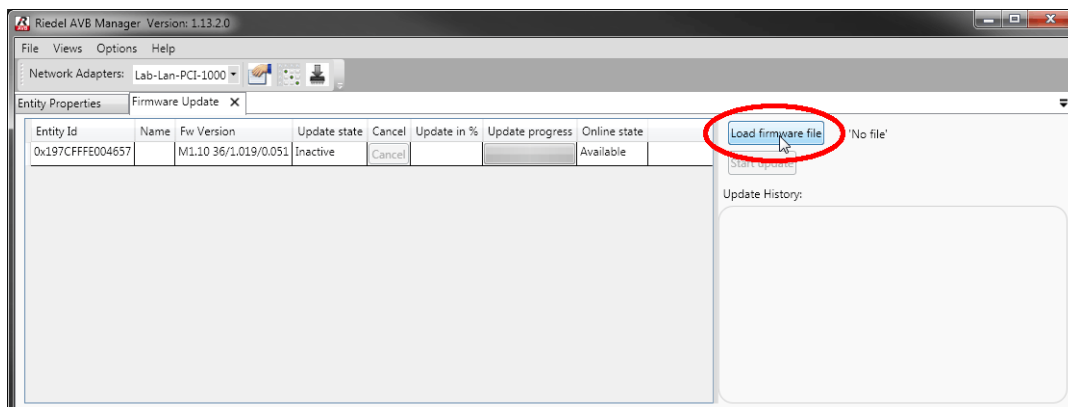


図 101 : Load Firmware file をクリックする (AVB-Manager)

> アップデートすべき RSP-2318 パネルを選ぶ。RSP-2318 を複数台選ぶことが可能 (CTRL や SHIFT キーを使う)。

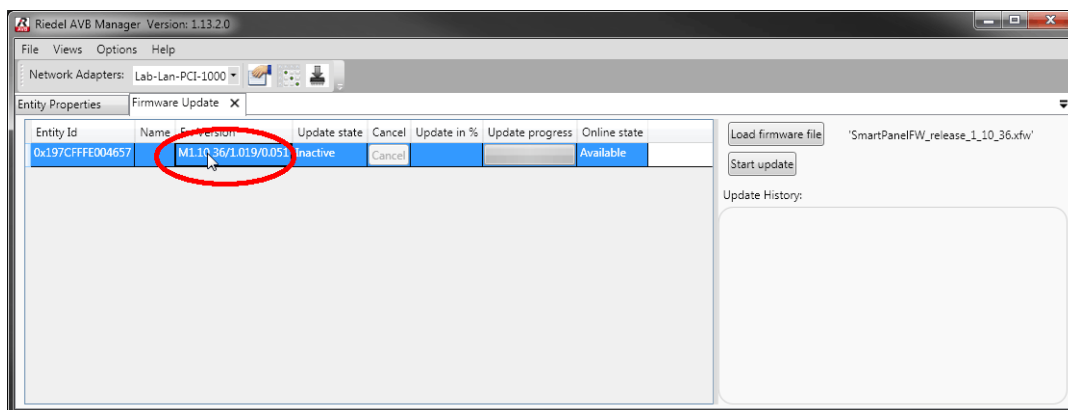


図 102 : アップデートするパネルを選択する (AVB-Manager)

> [Start update] ボタンをクリックする。

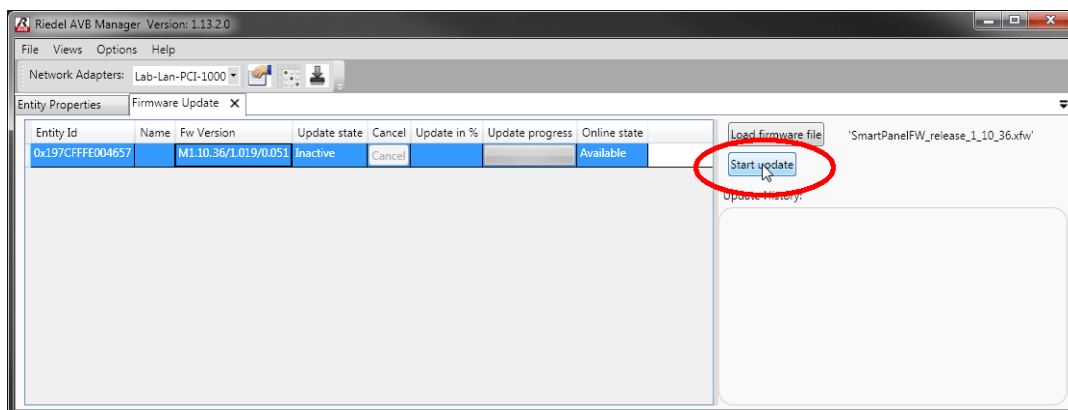


図 103 : Start update ボタンをクリックする (AVB-Manager)

まずファームウェア・ファイルが RSP-2318 パネルにアップロードされます。

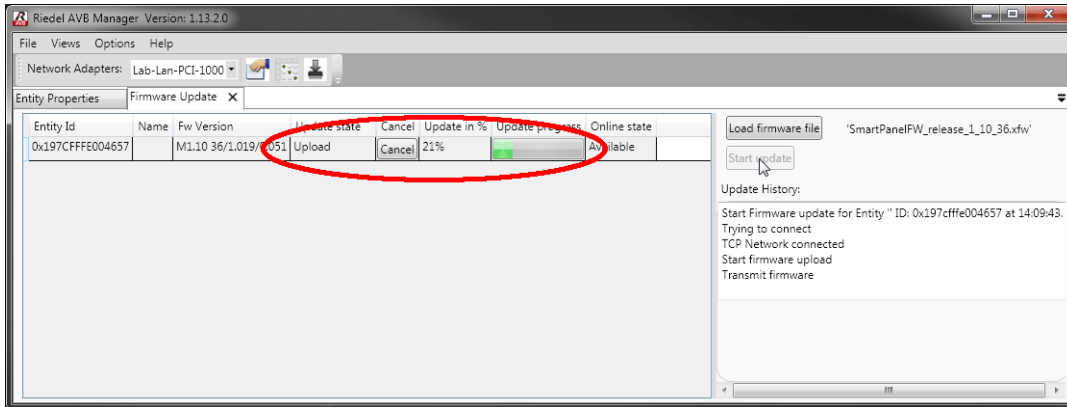


図 104 : アップロードの進行中 (AVB-Manager)

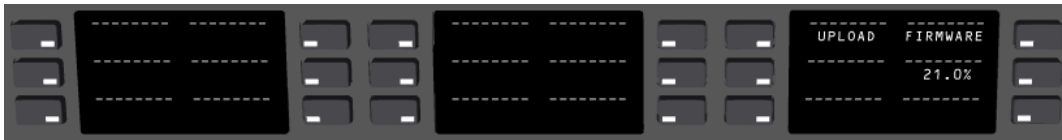


図 105 : アップロードの進行中 (RSP-2318)

ファイル転送後、ファイルはパネルのメモリー内に保存されます。

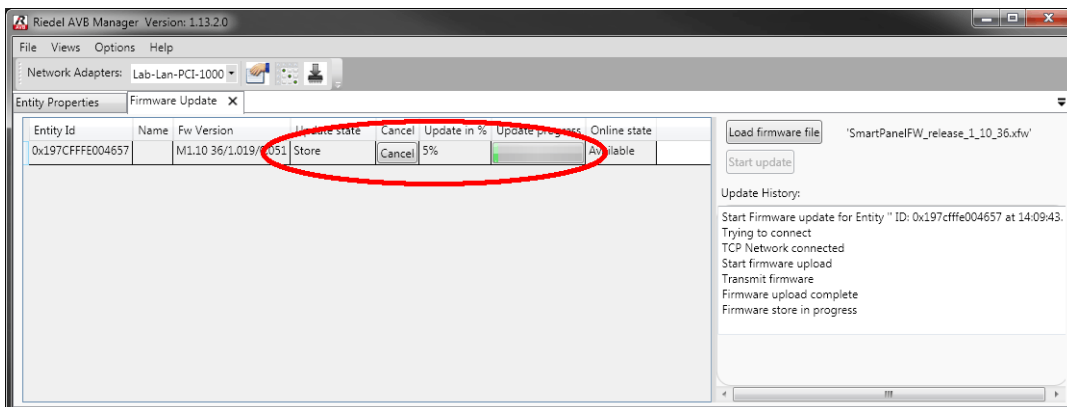


図 106 : アップデートの進行中 (AVB-Manager)

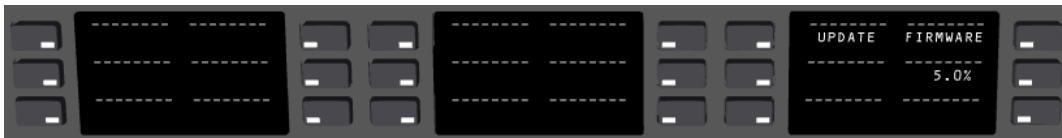


図 107 : アップデートの進行中 (RSP-2318)



アップデートの状態が「Store finished」 / 「Firmware update completed successfully...」に変わらないうちは、中断したりパネルの電源を入れ直したりしないでください。アップデート過程では SmartPanel が数回再起動したり、ディスプレイが点滅することがあります。

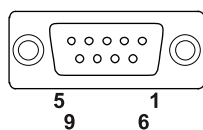
9 付録

9.1 ポートとピン割り当て

この節には SmartPanel のポートとピン割り当てをまとめました。

GPI IN ポート

GPI 入力コネクタには 3 つの個別ポートが含まれています。



ピン	信号
1	GP-IN1-P
2	GP-IN2-P
3	GP-IN3-P
4	GPI0 +5V
5	シャーシ

ピン	信号
6	GP-IN1-N
7	GP-IN2-N
8	GP-IN3-N
9	GND
シャーシ	シャーシ

図 108 : GPI IN のメス D-sub 9 ピン・ポートとピン割り当て

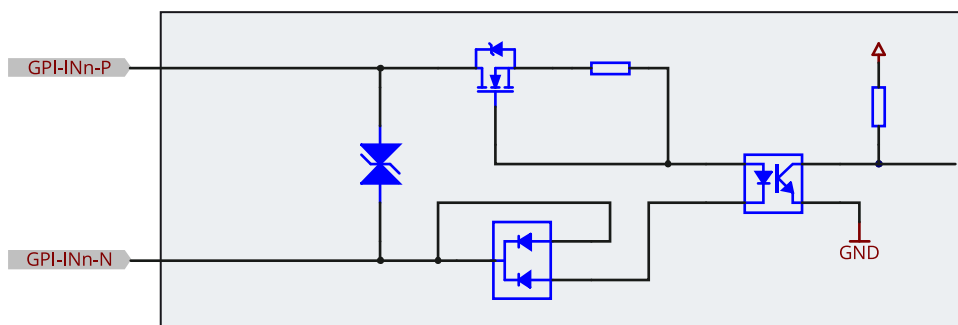
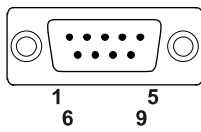


図 109 : GPI IN コネクタの回路図

- GPI 入力の入力電圧範囲は DC +5 ~ +48 V です (~ 5 mA 電流ドロー, 内部オプトカプラー)。
- 入力の極性が重要です。高い方の電位を各チャンネルの「P」に接続する必要があります。
- 入力はガルバニック絶縁されています。
- 「GPI0 +5V」出力電圧は負荷を高めることで下がります (5 V @ 0 mA) :
 HW-Revision 10.00 以降のデバイス : 3.3 V @ 25 mA
 HW-Revision 12.00 以降のデバイス : 3.3 V @ 50 mA

GPI OUT ポート

GPI 出力コネクタには 3 つの個別ポートが含まれています。



ピン	信号
1	GP-OUT1-P
2	GP-OUT2-P
3	GP-OUT3-P
4	GPIO +5V
5	シャーシ

ピン	信号
6	GP-OUT1-N
7	GP-OUT2-N
8	GP-OUT3-N
9	GND
シャーシ	シャーシ

図 110 : GPI OUT コネクタのオス D-sub 9 ピン・ポートとピン割り当て

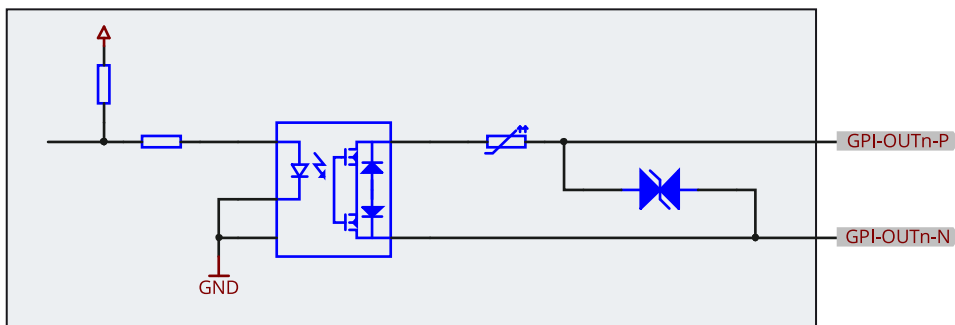
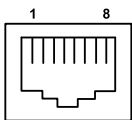


図 111 : GPI OUT コネクタの回路図

- GPI 出力の接点の定格は 300 mA, max. DC 60 V です (自己回復ヒューズで保護)。
- 出力の極性には基準がありません。
- 出力はガルバニック絶縁されています。
- 「GPIO +5V」出力電圧は負荷を高めることで下がります (5 V @ 0 mA) :
HW-Revision 10.00 以降のデバイス : 3.3 V @ 25 mA
HW-Revision 12.00 以降のデバイス : 3.3 V @ 50 mA

拡張ポート

Expansion コネクタは拡張パネルを接続するのに使われます。

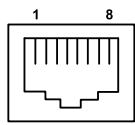


ピン	信号	カラーコード
1	TX+	橙 / 白
2	TX-	橙
3	RX+	緑 / 白
4	--	青
5	--	青 / 白
6	RX-	緑
7	--	茶 / 白
8	--	茶

図 112 : Expansion コネクタの RJ-45 のピン割り当て (8P8C)

ETH ポート

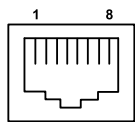
ETH (イーサネット) コネクタはインターカム・ネットワーク (AVB/AES67) を接続するのに使われます。
ETH ポートは 100/1000Base-T 互換です。



ピン	信号	カラーコード
1	BL_DA+	橙 / 白
2	BL_DA-	橙
3	BL_DB+	緑 / 白
4	BL_DC+	青
5	BL_DC-	青 / 白
6	BL_DB-	緑
7	BL_DD+	茶 / 白
8	BL_DD-	茶

図 113 : ETH コネクタの RJ-45 のピン割り当て (8P8C)

音声コネクタ



ピン	信号	カラーコード
1	--	橙 / 白
2	--	橙
3	--	緑 / 白
4	AIO-RX-P	青
5	AIO-RX-N	青 / 白
6	--	緑
7	AIO-TX-P	茶 / 白
8	AIO-TX-N	茶

図 114 : 音声コネクタの RJ-45 のピン割り当て

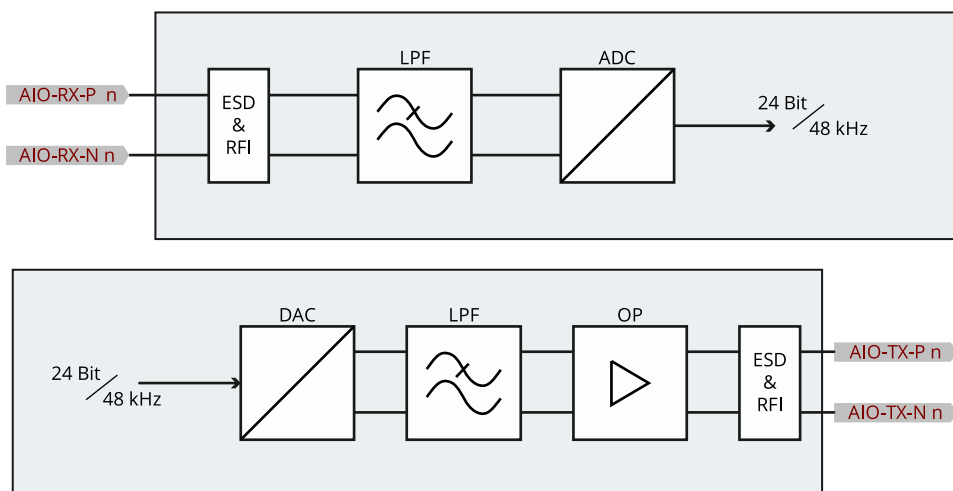
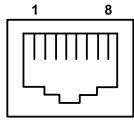


図 115 : 音声コネクタのブロック・ダイアグラム

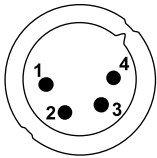
ヘッドセット・コネクター



ピン	ヘッドセット A	ヘッドセット B
1*	HS Phones A + (right)	HS Phones B + (right)
2	GND	GND
3*	Data A	Data B
4	HS MIC A +, (+5 VDC)	HS MIC B +, (+5 VDC)
5	HS MIC A -, (GND)	HS MIC B -, (GND)
6*	PTT A	PTT B
7	HS Phones A + (left)	HS Phones B + (left)
8	GND	GND
ケース	シャーシ	シャーシ

*) 使用予定.

図 116: ヘッドセット・コネクターの RJ-45 のピン割り当て



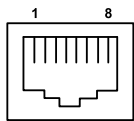
ピン	ヘッドセット A/B - Rev. B	ヘッドセット A/B - Rev. C
1	HS MIC A/B -, (GND)	HS MIC A/B -, (GND)
2	HS MIC A/B +, (+5 VDC)	HS MIC A/B +, (+5 VDC)
3	GND	HS Phones A/B - (left)
4	HS Phones A/B + (left)	HS Phones A/B + (left)

図 117: ヘッドセット・コネクターの 4 ピン・オス XLR のピン割り当て



マイクロフォンの電源 (DC+5V) は Director の設定に従ってオン (electret) / オフ (dynamic) されます。

マトリクス・コネクター



ピン	Matrix 1
1	TxD +
2	TxD -
3	RxD +
4	--
5	--
6	RxD -
7	--
8	--
シャーシ	シャーシ GND

図 118: Matrix 1 コネクターの RJ-45 のピン割り当て



ピン	Matrix 2
1	TxRx Data +
2	TxRx Data -

図 119: Matrix 2 コネクターの BNC のピン割り当て

9.2 推奨保守作業

システムの誤動作を防止するために以下の点を強くお勧めします。

一般

- すべてのファンが動作していることを確認する（ステータスおよびエラー・メッセージは Director ソフトウェア内に表示されます）。

毎日

なし

毎週

なし

毎月

- ファンのダスト・フィルターをチェックし、必要に応じて清掃 / 交換する。

毎年

なし

その他

- 3 年ごとに、ファンのフィルターを交換してください。これは経年変化のためで、フィルターが汚れていなくても、またシステムが使われていなくても交換してください。

9.3 サービス

Riedel Communications 社はこの製品について以下のことを含む幅広いカスタマー・サービスを提供しています：

- 電話サービス
- 電子メール・サービス
- Fax サービス
- コンフィギュレーションのサポート
- トレーニング
- 修理

サービスに関する問題でお客様の第一の連絡先は販売店です。

また、ドイツのヴッパータールにある Riedel Customer Service もお役に立つことができます。

電話：+49 (0) 202 292 9400 (月曜～金曜, 8am ~ 5pm, 中央ヨーロッパ標準時)

Fax：+49 (0) 202 292 9419

あるいは、Riedel Communications 社ウェブサイトをご覧ください：

www.riedel.net ➔ [Service & Support](#) ➔ [Technical Support](#)

修理に関しては販売店にお問い合わせください。販売店が修理をできる限り迅速に処理したりスペア・パーツを手配するお手伝いをします。

Riedel Communications 社に修理品を直接送る際の宛先は次のようになります：

Riedel Communications GmbH & Co. KG
- Repairs -
Uellendahler Str. 353
D-42109 Wuppertal
Germany

修理品すべてについて修理依頼の書式に必要事項を記入したものを添付してください。

修理依頼の書式は Riedel Communications 社ウェブサイトにあります：

www.riedel.net ➔ [Services & Supprt](#) ➔ [Repairs](#)

- この製品を安全にお使いいただくために、設置・運用には十分な安全対策を行ってください。
- 商品写真やイラストは、実際の商品と一部異なる場合があります。
- 掲載内容は発行時のもので、予告なく変更されることがあります。変更により発生したいかなる損害に対しても、弊社は責任を負いかねます。
- 記載されている商品名、会社名等は各社の登録商標、または商標です。